

# 2016年度三重短期大学年報

三重短期大学評価委員会

## 目 次

三重短期大学年報刊行にあたって	1
2016年度三重短期大学の概況	2
1. 理念・目的・教育目標	5
2. 組織	
1) 全学組織	
表1 設置学科・専攻等	7
2) 教員組織	
表2 全学の教員組織	8
表3 専任教員個別表	9
表4 専任教員年齢構成	13
3) 事務組織	
表5 事務組織	14
3. 教育	
1) 教育課程	
表6 学科の開設科目における専兼比率	15
表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数	17
2) 教育内容と効果	
表8 国家試験・資格試験合格率および卒業免許取得率	18
表9 卒業判定	19
表10 就職・進学状況	20
表11 学科の退学者・休学者数	21
4. 入試	
表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移	22
表13 学科の入学者の構成	24
5. 学生生活	
表14 学生相談室利用状況	25
表15 奨学金給付・貸与状況	26
表16 授業料免除状況	27
6. 研究	
表17 教員研究費	28
表18 科研費の採択状況	29

表19	教員研究室の状況	30
表20	専任教員の担当授業時間数	31
7. 社会活動		
表21	公開講座の開設状況	32
8. 大学運営		
1) 施設・設備		
表22	校地・校舎、講義室・演習室等の面積	33
表23	学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模	34
2) 図書館		
表24	図書資料の所蔵数	35
表25	学生閲覧室等の面積・座席数	36
表26	図書館利用状況	37
3) 財務		
表27	歳入・歳出決算表	38
4) 管理運営		
表28	教授会開催状況	39
9. 専任教員の活動実績		
		41

三重短期大学は、これまで、2001年、2009年、2010年、2014年に自己点検評価報告書を作成し、2010年のものについては、大学評価・学位授与機構による認証評価を受け、適格の判定を与えられました。

本学では、全学的な自己点検評価は3ないし4年ごとに実施することとしていますが、その基礎資料として、毎年、専任教員の研究教育業績調査を実施し、さらに自己点検評価実施に必要な定型的なデータを収集することとしています。

これらの基礎データについては、2011年度分から「三重短期大学年報」として取りまとめて、本学HP上に公開して、広く三重短期大学の状況について発信することとしました。なお、年報書のHP上の公開は、原則11月から12月の間に行なうこととしています。

「三重短期大学年報」は、職階別の年齢構成・男女比などの教員データ、受験者数・合格者数などの入試データや、在籍学生数・卒業数・休退学数・進路状況などの学生データ、施設・設備・短大財政などの管理データ、それに専任教員の教育・研究・地域貢献活動の状況などから構成することとし、当該年度末の三重短期大学の状況を数値面から把握できるように、大項目ごとに章立てして構成してあります。

「三重短期大学年報」は基礎的データの掲載が主内容です。諸数値の基準日は2016年5月1日時点とし、そうでない場合は、注記によって示しています。それぞれについての詳細な自己評価は行わず、3年ないし4年ごとに行われる自己点検評価のための資料とするものですが、全体的な概要を冒頭に記載してあります。ただし、あくまでも特徴的な変化を把握するもので、評価には踏み込んでおりません。

2011年度から2013年度までの「三重短期大学年報」のデータをもとに、2014年度に自己点検評価作業を行い、2015年3月に「三重短期大学自己点検・評価報告書」をとりまとめて公開しました。これは、前回の認証評価と次回の認証評価の間の中間的な自己点検評価報告書で、定期的な自己点検評価作業の一環です。

今後とも、継続的に短大情報を公開していく中で、自己点検評価に必要な外部からの意見・提言を寄せていただけるよう関係各方面にお願いします。

2017年12月

## 2016年度三重短期大学の概況

### 1. 本学の理念・目的・教育目標について

- ・理念・目的・教育目標については前年度を踏襲しているが、2014年度にディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを定めて、HP上に公開している。これによって、理念・目的・教育目標を具体化する形で、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを体系的に整備し、その後、2016年に3ポリシーを改定した。

### 2. 三重短期大学の組織について

- ・学科・専攻・コース構成については2007年度以降継続している。
- ・専任教員は助教以上が法経科13名、生活科学科15名の28名で、教員1名当たりの在籍学生数は平均23名である。
- ・教員の年齢構成は35歳以下が1名、45歳以下が13名、55歳以下が7名、65歳以下が7名であり、前年度に比して、35才以下の若手教員の割合が低下している。
- ・教員の職階構成では教授14名、准教授12名、講師0名、助教2名となっている。
- ・事務職員は常勤職員が14名、非常勤職員等が12名となっており、常勤職員数が前年度より減少し、その分非常勤職員等が増加している。

### 3. 教育課程の状況

- ・両学科の開設授業科目のうち専門教育科目については、専任教員の担当比率は法経科第1部では50%、法経科第2部では55%であり、生活科学専攻では38%とやや低く、食物栄養学専攻では44%と昨年より10%以上下がった。
- ・最近3年間の在籍学生数は法経科第2部を除いて、定員を充足している。法経科第2部については、在籍数が定員を充足していない状況が続いている。
- ・卒業判定の合格率については、昨年度の87.2%から90.1%と上昇しており、また法経科第2部の合格率も71.1%から78.3%へとかなり改善をしている。
- ・留年率についてみると、前年に比して若干減少している。しかし、法経科第2部では約3ポイントの上昇を見ている。前年と比べ退学者数はほぼ同数であることから、留年率が上昇したことによるものである。
- ・退学・休学状況についてみると、2015年度の退学者数は28名、休学者数は1名で、この3年間は増加傾向にあったが、本年度は減少に転じた。全体の退学率は4.1%から3.6%への減少となっている。
- ・国家試験・資格試験の状況についてみると、栄養士資格取得者は2015年度の43名から50名へ若干の増加を示している。
- ・教員免許取得者については中学社会科二種・中学家庭科二種・栄養教諭二種の合計で7名となっており、昨年度の10名からやや減少している。特に、中学社会科二種取得者は3名から0名へと減少している。
- ・卒業後の進路状況についてみると、就職者数については、法経科第1部では増加したが、生活科学科は前年度より減少を示している。進学のうち他大学編入に関しては、法経科第1部では減少したものの、生活科学科専攻では前年度10名に対し21名と増加した。

#### 4. 入試の状況

- ・過去5年間の定員充足率は法経科第2部を除けば、おおむね100%を越えている。法経科第2部については、2015年度45%から2016年度57%へ回復し、2017年度は57%と横ばいである。過去5年間では、昨年同様最も充足率が高くなっている。
- ・法経科第2部の社会人特別選抜入試の志願者数は、2016年は過去5年でもっとも増加したが、2017年は2016年より若干ながら減少をした。生活科学科においては、生科学科専攻で2011年度入試から導入した関連分野特別選抜入試、社会人特別選抜入試については漸増傾向にあったが、2015年度入試で一転減少し、2016年度では過去5年間でもっとも増加したが、2017年は2015年と同水準である。食物栄養学専攻では、2017年は過去5年でもっとも減少した。
- ・入学定員に対する志願者の割合を見ると、2016年度は一転前年の1.60倍から1.84倍へと増加したが、2017年度では1.59となり、2015年度と同水準となっている。
- ・入試種別の入学者構成を見ると一般入試が37.1%（前年度34.6%）、推薦入試が34.4%（37.1%）、センター利用入試が22.1%（20.3%）、社会人特別選抜が4.6%（6.3%）、関連分野特別選抜が1.8%（1.7%）となっており、一般入試及びセンター入試利用の割合が若干増加している。

#### 5. 学生生活の状況

- ・学生相談室は年間23日開室され、非常勤の臨床心理士によるカウンセリングが行われているが、2016年度の相談件数は98件で、前年の115件と比べて減少を見ている。
- ・奨学金についてはほとんどが貸与であるが、在籍学生693名の32%（前年36.1%）に当たる222名が受給しており、前年度より減少している。一人当たりの平均受給額は年間76万円である。
- ・授業料の減免については、半期ごとに認定されるが、2016年度前・後期合計で66件の申請に対して全額免除30件、半額免除31件、合計で61件の認定が行われた。前年に比べて2016年度は希望者数は減少しているが、免除の不採用数も減少している。

#### 6. 専任教員の研究環境

- ・教員の研究費総額は1370万円であり、学内外を合わせた教員1人当たりの平均研究費は法経科で39万円、生活科学科で51.5万円であり、そのうち設置者の支出によって手当てされる分は、法経科が63%、生活科学科が38%である。法経科では科研費補助金などの学外研究費の受給額が漸減しており、これが平均研究費の水準を押し下げている。
- ・科研費については2016年度は3件申請して採択件数は1件であった。
- ・教員研究室は講師以上の専任教員には、ほぼ個室が確保されているが、助教については個室の確保がない。共同研究室も含めた研究室の平均面積は法経科で27.2㎡、生活科学科で23.9㎡である。
- ・助教を除く専任教員の担当授業時間数は、法経科の平均授業時間は9.75時間であり、生活科学科では9.35時間である。

#### 7. 社会活動

- ・従来、本学が提供している公開講座としては地域連携講座・出前講義・オープンカレッジがある。2016年度には、2015年度より多い38講座が開講され、1642名の受講者があった。開講数、参加者数ともに2015年度を大きく上回った。特に出前講座が開設数、参加者数とも大幅に増加した。また、1講座当たりの平均参加者数も2015年度の49名から52名へと増加した。

## 8. 大学運営

- ・校地・校舎・講義室・演習室などの教育施設の新増設については、大きな変更はなかったが、昨年度2つの小教室に固定式のプロジェクターが設置されことに続き、2016年度は全教室にプロジェクターが設置され音響・映像環境の改善が図られ、また大学ホールおよび管理棟の空調設備を改修した。
- ・図書館の収蔵冊数は93,410冊で、2016年度中に1197冊の増加があった。
- ・2016年度の利用者数は3,249名、貸出冊数は6,003冊で、学生の利用者数および貸出冊数ともに年々減少傾向にある。
- ・2016年度の大学財政についてみると、歳入合計は5億9918万円で授業料・入学金等が2億7360万円、一般財源からの支出が2億4691万円となっている。歳出内訳では一般職給が4億1879万円、大学管理運営事業費8521万円、教育研究関係事業費1298万円、図書館管理運営事業1114万円が主なものである。
- ・教授会は定例・臨時を含めて20回開催され、大学運営上の諸課題の審議・決定に当たった。

## 9. 専任教員の活動状況

- ・専任教員の活動状況については、「三重短期大学教員研究・教育業績」として、教員ごとに研究活動・教育活動・社会的活動の状況を掲載した。

## 1. 三重短期大学の理念と教育目標

### (1) 三重短期大学の理念

三重短期大学は、知の創造と継承を理念として、真理の探究とそれに基づく教育により優れた人材を育成するとともに、地域における知の拠点として、広く市民と連携し、協働することを通じて、地域の文化の向上及び豊かな地域社会の実現に寄与する。

#### 1) 教育研究の理念

- ・真理の探究（知の創造・継承・発展）

教育・研究活動を通じて、人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉の向上、文化の批判的継承と創造に貢献する。

- ・優れた人材の育成

広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え、応用力や実践力に富む有為な人材を育成する。

高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。

#### 2) 地域貢献の理念

津市の設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え、生涯学習の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する。

#### 3) 大学運営の理念

真理の探究と知の創造にかかわる、自律性と自発性に基づく教育研究活動を尊重し、促進する。

大学の自治とは、大学がいかなる利害からも自由に知の創造と発展を行うことを通じて広く人類社会に貢献することができるよう、国民から特に付託されたものであることを常に自覚し、教育研究及び管理運営に関して、主体的に点検と評価を進めるとともに、他者からの批判的評価を積極的に求め、その付託に伴う責務を自立的に果たすべく努める。

### (2) 三重短期大学の教育目標

三重短期大学は、広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、論理的で自主的な判断能力に加え応用力や実践力の富む有為な人材の育成を行う。

- ・創造性豊かな人間性と優れた専門性を備えた人材の育成  
文化・社会・人間・自然に関する人類の知的遺産を学び理解するとともに、基本的な知的思考能力を育成する。
- ・実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成  
総合的に考える能力、科学的な思考法、適切な自己表現能力、自主的な課題発見・解決能力など応用力や実践力を育成する。
- ・地域社会を主体的に担う市民の育成  
高い公共性・倫理性を備え、民主的で文化的な社会の形成に主体的に参画する市民を育成する。
- ・国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力の養成  
グローバルな視野と国際感覚を身につけるとともに、コミュニケーション能力や情報社会に対応できるICT（Information & Communication Technology）活用能力を育成する。

### (3) 学科・専攻の教育目標

#### 法経科第1部

- ・法律・行政・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識の修得の上に、最新の学問的到達について一定の理解をもった人材を育成する。
- ・机上の学問にとどまらず、修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することのできる



人材を育成する。

- ・ 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけ、地域社会に貢献しうる見識ある職業人・市民の育成をめざす。

#### **法経科第2部**

- ・ 社会科学についての基本的な素養を身につけた市民の育成をめざす。
- ・ 「学ぶことで自らの人生をより豊かなものにしたい」という願いを支援する。
- ・ 社会のみならず文化や自然についての幅広い教養の上に、広い視野と寛容さを身につけた、地域社会に貢献しうる見識ある市民の育成をめざす。

#### **生活科学科食物栄養学専攻**

- ・ 食を通じた豊かな人間形成と、食に関する知識と技能を融和させて実践することができる専門性の高い教育を行う。
- ・ 科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解や対処ができる栄養士や栄養教諭などの食のスペシャリストを育成する。
- ・ 個人の食や健康問題に対応した栄養教育を実践できる能力を養い、地域社会の食や健康問題に貢献できる人材を育成する。

#### **生活科学専攻生活福祉・心理コース**

- ・ 社会福祉学や心理学を中心に「理論」と「実践」を学び、現場で生きる知識と技術を備えた人材を育成する。
- ・ 学生の持つ個性や能力を最大限に引き出し、豊かな人間関係を築くことができる人材を育成する。
- ・ 人々や地域が抱える様々な課題を広い視野で総合的に考察・分析した上で、地域における生活者の一員として主体的に行動できる人材を育成する。

#### **生活科学専攻居住環境コース**

- ・ 住まいやまちの環境を快適にする力を育成する。
- ・ 環境問題を認識し、環境共生のために住まいとまちの持ち味を生かす力を育成する。
- ・ 住まい・まちと福祉をつなぐ力を育成する。
- ・ 住まいとまちをつくる専門的な力を育成する。

表1 設置学科・専攻等

	学科	専攻・部	コース	専攻科
三重短期大学	法経科	第1部<昭和44年4月> 第2部<昭和27年4月>	法律コース<平成19年4月> 経商コース<平成19年4月>	
	生活科学科	食物栄養学専攻<昭和44年4月> 生活科学専攻<平成3年4月>	生活福祉・心理コース<平成19年4月> 居住環境コース<平成19年4月>	

表2 全学の教員組織 (2016年度)

学科		専任教員数					助手	設置基準上 必要専任 教員数	専任教員1人あ たりの在籍学生 数 (表7の在籍数 /A)	兼任教員数					兼任 教員数
		教授	准教授	講師	助教	計(A)				教授	准教授	講師	助教	計	
法経科	第1部	8	5			13		3	29.23	6	1			7	27
	第2部							7							15
生活科学科	食物栄養学専攻	2	2		2	6	1	4	17.50						32
	生活科学専攻	4	5			9		4	23.11	3	2			5	42
合 計		14	12	0	2	28	1	18		9	3			12	116
短期大学全体の入学定員に 応じ定める専任教員数								5							

- [注] 1 専任とは、常勤する者をいい、兼任とは、学外からの兼務者を示す。  
 2 同一の兼任教員が複数の学科を担当する場合、重複して記載している。

表3 専任教員個別表 (2016年度)

法経科

職名	氏名	性別	就職年月日	現職就任年月日	所属専攻・コース	授業科目								最終学歴及び学位称号	
						科目名	毎週授業時間数				実験・実習・実技		計		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期		後期
教授	タケソエ 敦子	女	1989/4/1	1995/4/1	法経科	文学Ⅰ	2.0						2.0	0.0	関西大学大学院文学研究科 文学修士
						文学Ⅰ(法2)	2.0						2.0	0.0	
						文学Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						文学Ⅱ(法2)		2.0					0.0	2.0	
						独語Ⅰ	2.0	2.0					2.0	2.0	
						独語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						比較文化論	2.0						2.0	0.0	
						比較文化論(法2)	2.0						2.0	0.0	
計	12.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	8.0							
教授	モギ 陽一	男	1987/4/1	1993/4/1	法経科 経商 コース	経済史	4.0						4.0	0.0	一橋大学大学院社会学研究科 社会学修士
						経済史(法2)		4.0					0.0	4.0	
						歴史学		2.0					0.0	2.0	
						歴史学(法2)		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0	
教授	タケイシ 芳夫	男	1999/10/1	2009/4/1	法経科 法律 コース	行政学		4.0					0.0	4.0	立命館大学大学院法学研究科 法学修士
						行政学(法2)	4.0						4.0	0.0	
						地方政治論	4.0						4.0	0.0	
						自治体行政特論	2.0						2.0		
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学入門	0.3						0.3	0.0	
計	10.3	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	14.3	8.0							
教授	ムライ 美代子	女	2003/4/1	2011/4/1	法経科	英語Ⅰ	2.0	2.0					2.0	2.0	大阪大学大学院文学研究科 文学博士
						英語Ⅰ(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						英語講読	2.0	2.0					2.0	2.0	
						英語講読(法2)	2.0	2.0					2.0	2.0	
						キャリア形成セミナー	2.0						2.0	0.0	
						計	10.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	8.0	
教授	クスマト 孝	男	2004/4/1	2012/4/1	法経科 法律 コース	刑法	4.0						4.0	0.0	中央大学大学院法学研究科 法学修士
						刑法(法2)	4.0						4.0	0.0	
						刑事政策		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						法学入門	0.4						0.4	0.0	
農林体験セミナー	2.0						2.0	0.0							
計	10.4	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	14.4	8.0							
教授	ミヤケ 裕一郎	男	2008/10/1	2013/10/1	法経科 法律 コース	日本国憲法(日本国憲法Ⅰ・Ⅱ)	2.0						2.0	0.0	専修大学大学院法学研究科 法学博士
						日本国憲法(法2)	4.0						4.0	0.0	
						憲法訴訟論	2.0						2.0	0.0	
						演習			2.0				2.0	0.0	
						社会科学演習							0.0	0.0	
						法学入門	0.4						0.4	0.0	
計	8.4	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	10.4	0.0							
教授	イシハラ 洋介	男	2006/4/1	2014/4/1	法経科 経商 コース	金融論		4.0					0.0	4.0	一橋大学大学院経済学研究科 経済学修士
						金融論(法2)	4.0						4.0	0.0	
						国際経済論	2.0						2.0	0.0	
						国際経済論(法2)		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0	
教授	トミタ 仁	男	2009/4/1	2014/4/1	法経科 法律 コース	民法Ⅰ	4.0						4.0	0.0	名城大学大学院法学研究科 法学修士
						民法Ⅰ(法2)	4.0						4.0	0.0	
						民法Ⅱ		2.0					0.0	2.0	
						演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
						法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
						法学入門	0.4						0.4	0.0	
計	8.4	2.0	4.0	6.0	0.0	0.0	12.4	8.0							

准教授	フジエ 藤枝	リツ子 律子	女	2010/4/1	2010/4/1	法経科 法律 コース	行政法	4.0						4.0	0.0	名古屋大学大 学院法学研究 科 法学修士
							行政法(法2)		4.0					0.0	4.0	
							地方自治法		2.0					0.0	2.0	
							演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
							法学入門	0.5						0.5	0.0	
計	4.5	6.0	4.0	6.0	0.0	0.0	8.5	12.0								
准教授	スギヤマ 杉山	ナオン 直	男	2013/4/1	2013/4/1	法経科 経商 コース	経営学	4.0						4.0	0.0	中京大学大学 院商学研究科 経営学博士
							経営学(法2)		4.0					0.0	4.0	
							人的資源管理論	2.0						2.0		
							人的資源管理論(法2)		2.0							
							演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	8.0	
准教授	タナカ 田中	サトミ 里美	女	2012/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース	会計学	4.0						4.0	0.0	明治大学大学 院商学研究科 商学博士
							会計学(法2)		4.0					0.0	4.0	
							税務会計論	2.0						2.0	0.0	
							上級簿記(経営特殊講義)		2.0					0.0	2.0	
							演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							計	6.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	10.0	10.0	
准教授	カナニ 金江	リュウ 亮	男	2015/4/1	2015/4/1	法経科 経商 コース	経済原論	4.0						4.0	0.0	京都大学大学 院経済学研究 科 経済学博士
							経済原論(法2)	4.0						4.0	0.0	
							経済学史		2.0					0.0	2.0	
							経済学特殊講義		4.0							
							演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							計	8.0	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.0	6.0	
准教授	オホヘ 大畑	サトシ 智史	男	2016/4/1	2016/4/1	法経科 経商 コース	財政学	4.0						0.0	4.0	東北大学大学 院経済学研究 科 経済学修士
							財政学(法2)		4.0					0.0	4.0	
							地方財政論	2.0						2.0	0.0	
							地方財政論(法2)	2.0						2.0	0.0	
							演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会科学演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							計	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	0.0	8.0	12.0	
准教授	カワサキ 川崎	ミウシロウ 航史郎	男	2016/10/1	2016/10/1	法経科 法律 コース	労働法		4.0					0.0	4.0	龍谷大学大学 院法学研究科 法学博士
							労働法(法2)		4.0					0.0	4.0	
							法学基礎演習				2.0			0.0	2.0	
							演習				2.0			0.0	2.0	
							社会科学演習				2.0			0.0	2.0	
							計	0.0	8.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	14.0	

生活科学科

職名	氏名	性別	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	所属専 攻・ コース	授 業 科 目								最終学歴及び 学位称号		
						科目名	毎週授業時間数									
							講義		演習		実験・実習・実技		計			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
教授	トウフクジ 東福寺 一郎	男	1982/4/1	1990/4/1	生活福祉・心理コース	発達と学習		2.0						0.0	2.0	慶応義塾大学 大学院社会科学 科文学修士
						心理学概論	2.0							2.0	0.0	
						教職実践演習(中学)				2.0				0.0	2.0	
						心理学基礎実験						4.0		4.0	0.0	
						福祉心理基礎演習				2.0				0.0	2.0	
						福祉心理演習			2.0	2.0				2.0	2.0	
						教職実習Ⅰ・Ⅱ 事前事後の指導						4.0	2.0	4.0	2.0	
						栄養教育実習 事前事後の指導						1.0	1.0	1.0	1.0	
						生活科学概論	0.1							0.1	0.0	
						計	2.1	2.0	2.0	6.0	9.0	3.0	13.1	11.0		
教授	イトウ 伊藤 貴美子	女	2003/4/1	2008/4/1	食物栄養専攻	食品学	2.0							2.0	0.0	京都大学大学 院医学研究科 医学博士
						食品学実験					3.0		3.0	0.0		
						食品衛生学Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
						食品衛生学Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						食品の機能		2.0					0.0	2.0		
						食品衛生学実験						3.0	0.0	3.0		
						管理栄養特殊講義 特別演習		0.3				3.0	0.0	3.3		
						生活科学概論	0.1		4.0	4.0			4.0	4.0		
計	4.1	4.3	4.0	4.0	3.0	6.0	11.1	14.3								
教授	ミナミ 南 有哲	男	1999/4/1	2007/4/1	居住環境コース	環境論	2.0							2.0	0.0	京都大学大学 院経済学研究 科 経済学修士
						環境論(法2)	2.0						2.0	0.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						環境政策論		2.0					0.0	2.0		
						環境政策論(法2)		2.0					0.0	2.0		
						環境倫理学		2.0					0.0	2.0		
						環境共生論	2.0						2.0	0.0		
						生活経営	2.0						2.0	0.0		
生活科学概論	0.1						0.1	0.0								
計	8.1	6.0	4.0	4.0	0.0	0.0	12.1	10.0								
教授	ナガトモ 長友 薫輝	男	2004/4/1	2013/4/1	生活福祉・心理コース	社会福祉論・社会福祉論Ⅰ	2.0						2.0	0.0	龍谷大学大学 院社会学研究 科 社会福祉学修 士	
						社会保険論・社会保険論Ⅰ	2.0						2.0	0.0		
						社会保険論Ⅱ		2.0					0.0	2.0		
						地域福祉論Ⅱ	2.0					0.0	2.0			
						社会福祉援助技術現場実習Ⅰ					2.0		2.0	0.0		
						社会福祉援助技術現場実習Ⅱ						1.0	0.0	1.0		
						福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0		
						福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
						計	4.1	4.0	2.0	4.0	3.0	1.0	9.1	9.0		
教授	スエノダ 末下 誠一	男	2009/4/1	2015/4/1	居住環境コース	居住福祉論		2.0					0.0	2.0	三重大大学大学 院工学研究科 工学博士	
						居住計画論	2.0						2.0	0.0		
						住生活論		2.0					0.0	2.0		
						住生活設計Ⅰ						4.0	0.0	4.0		
						住生活設計Ⅱ					4.0		4.0	0.0		
						居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0		
						生活科学概論	0.3						0.3	0.0		
計	2.3	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	10.3	12.0								
教授	ヤマダ 山田 徳広	男	2015/4/1	2015/4/1	食物栄養専攻	生化学	2.0						2.0	0.0	東京農工大学 大学院農学研 究科 生物環境調整 学博士	
						生化学実験					3.0		3.0	0.0		
						ライフステージ栄養学	2.0						2.0	0.0		
						管理栄養特殊講義 特別演習		0.5					0.0	0.5		
						食生活論		2.0					0.0	2.0		
						栄養学		2.0					0.0	2.0		
						栄養学実験						3.0	0.0	3.0		
						栄養教育実習 事前事後の指導					1.0	1.0	1.0	1.0		
						教職実践演習(栄養)				2.0			0.0	2.0		
						生活科学概論	0.1						0.1	0.0		
						計	4.1	4.5	4.0	6.0	4.0	4.0	12.1	14.5		

准教授	アベ 阿部	ヲササ 稚里	女	2006/4/1	2008/4/1	食物栄 養学専 攻	栄養教育論Ⅰ							0.0	0.0	休職中 椋山女学園大 学大学院生活 科学研究科 人間生活科学 博士
							栄養教育論実習Ⅰ							0.0	0.0	
							給食計画実務論実習Ⅱ							0.0	0.0	
							校外実習事前事後指導 特別演習							0.0	0.0	
							栄養教育論Ⅱ							0.0	0.0	
							栄養教育論実習Ⅱ							0.0	0.0	
							栄養教育実習							0.0	0.0	
							事前事後の指導									
							教職実践演習(栄養)							0.0	0.0	
							生活科学概論							0.0	0.0	
計							0.0	0.0								
准教授	キタムラ 北村	カオリ 香織	女	2007/4/1	2010/4/1	生活福 祉・心 理こ ース	社会福祉援助技術演習Ⅰ			4.0				0.0	4.0	龍谷大学大学 院社会学研究 科 社会福祉学修 士
							社会福祉援助技術現場実習Ⅰ					1.0		0.0	1.0	
							社会福祉援助技術現場実習Ⅱ							1.0	0.0	
							社会福祉発達史	2.0						2.0	0.0	
							障害者福祉論	2.0						2.0	0.0	
							福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
							福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		3.0					0.0	3.0	
							生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
							計	4.1	3.0	2.0	8.0	1.0	1.0	7.1	12.0	
准教授	ミヅノ 清道	アサヒ 亜都子	女	2013/10/1	2013/10/1	生活福 祉・心 理こ ース	教育の基礎理論							0.0	0.0	休職中 名古屋大学大 学院教育発達 化学研究科 教育学博士
							教育の基礎理論(法2)							0.0	0.0	
							栄養教育実習 事前事後の指導							0.00	0.00	
							教育実習Ⅰ・Ⅱ 事前事後の指導							0.00	0.00	
							福祉心理演習							0.0	0.0	
							福祉心理基礎演習							0.0	0.0	
							教職実践演習(栄養)							0.0	0.0	
							教職実践演習(中学)							0.0	0.0	
							道徳教育の研究							0.0	0.0	
							保育学(実習を含む)							0.0	0.0	
生活科学概論							0.0	0.0								
計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								
准教授	タケダ 武田	イフク 誠一	男	2013/10/1	2013/10/1	生活福 祉・心 理こ ース	医療福祉論	2.0						2.0	0.0	新潟大学大学 院 歯学総合研 究科医科学専 攻 医科学修士
							社会福祉援助技術論Ⅰ		4.0					0.0	4.0	
							社会福祉援助技術総論	4.0						4.0	0.0	
							社会保障論Ⅱ	2.0						2.0	0.0	
							福祉心理基礎演習				2.0			0.0	2.0	
							福祉心理演習			2.0	2.0			2.0	2.0	
							社会福祉援助技術現場実習Ⅰ						1.0	0.0	1.0	
							社会福祉援助技術現場実習Ⅱ							1.0	0.0	
							生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
							計	8.1	4.0	2.0	4.0	1.0	1.0	11.1	9.0	
准教授	オノデラ 小野寺	カズマサ 一成	男	2014/4/1	2014/4/1	居住環 境こ ース	都市計画論		2.0					0.0	2.0	東洋大学大学 院 工学研究科 国際地域学博 士
							地域政策論	2.0						2.0	0.0	
							地域政策論(法2)	2.0						2.0	0.0	
							住環境計画	2.0						2.0	0.0	
							地域環境学		2.0					0.0	2.0	
							居住環境特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	
							まちづくり設計Ⅰ					2.0		2.0	0.0	
							まちづくり設計Ⅱ						2.0	0.0	2.0	
							生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
							計	6.1	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	12.1	10.0	
准教授	ユマガ 駒田	アイ 亜衣	女	2014/4/1	2014/4/1	食物栄 養学専 攻	給食計画実務論		2.0					0.0	2.0	青森県立保健 大学大学院健 康科学研究科 健康科学博士 医学博士
							調理学	2.0						2.0	0.0	
							給食計画実務論実習Ⅰ					3.0		3.0	0.0	
							給食計画実務論実習Ⅱ						2.0	2.0	2.0	
							校外実習事前事後指導							2.0	2.0	
							調理学実習Ⅱ(調理学実習Ⅰ)						3.0	0.0	3.0	
							管理栄養特殊講義	0.3						0.0	0.3	
							特別演習		4.0	4.0				4.0	4.0	
							生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
							計	2.1	2.3	4.0	4.0	5.0	5.0	11.1	11.3	
准教授	シユウ 笠	コウイチロウ 浩一朗	男	2015/4/1	2015/4/1	居住環 境こ ース	情報と社会	2.0						2.0	0.0	名古屋大学大 学院情報科学 研究科 情報科学博士
							情報と科学		2.0					0.0	2.0	
							情報と科学(法2)		2.0					0.0	2.0	
							数理学	2.0						2.0	0.0	
							情報処理実習Ⅰ					4.0		0.0	4.0	
							情報処理実習Ⅱ(法2)					2.0		2.0	0.0	
							居住環境特別演習		4.0	4.0				4.0	4.0	
生活科学概論	0.1						0.1	0.0								
計	4.1	4.0	4.0	4.0	2.0	4.0	10.1	12.0								
助教	イイダ 飯田	ツキミ 津喜美	女	1990/4/1	2008/4/1	食物栄 養学専 攻	特別演習			4.0	4.0			4.0	4.0	三重短期大学 家政科食物栄 養学専攻
							管理栄養特殊講義	0.1						0.0	0.1	
							生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
							計	0.1	0.1	4.0	4.0	0.0	0.0	4.1	4.1	
助教	ユマガ 菜田	タケシ 武志	男	2014/10/1	2014/10/1	食物栄 養学専 攻	特別演習							0.0	0.0	京都大学大学 院 農学研究科 農学博士
							管理栄養特殊講義	0.1	0.3					0.0	0.3	
							生活科学概論	0.1						0.1	0.0	
							計	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	

[注] 1 1 授業科目を複数の教員で担当する場合、当該授業時間数を担当者数で割り毎週授業時間数を算出した。

表4 専任教員年齢構成 (2016年度)

学科・専攻科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
法経科	教授	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	准教授	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%
	講師	%	%	%	%	%	%	%	%	0 %
	助教	%	%	%	%	%	%	%	%	0 %
合計		1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	3 27.3%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	11 100.0%
定年 65歳										

学科・専攻科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
生活科学科	教授	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%
	講師	%	%	%	%	%	%	%	%	0 0.0%
	助教	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
合計		2 14.3%	0 0.0%	1 7.1%	4 28.6%	0 0.0%	7 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 100.0%
定年 65歳										

学科・専攻科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
教養教育担当	教授	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
	准教授	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	講師	%	%	%	%	%	%	%	%	0 0.0%
	助教	%	%	%	%	%	%	%	%	0 %
合計		1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
定年 65歳										

全学科・専攻科	職位	61歳～	56歳～	51歳～	46歳～	41歳～	36歳～	31歳～	26歳～	計
		65歳	60歳	55歳	50歳	45歳	40歳	35歳	30歳	
	教授	4 28.6%	1 7.1%	1 7.1%	4 28.6%	3 21.4%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	14 100.0%
	准教授	0 0.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	7 58.3%	1 8.3%	0 0.0%	12 100.0%
	講師	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 0.0%
	助教	0 %	0 %	0 %	1 50.0%	0 %	1 %	0 0.0%	0 %	2 50.0%
合計		4 14.3%	3 10.7%	2 7.1%	5 17.9%	4 14.3%	9 32.1%	1 3.6%	0 0.0%	28 100.0%
定年 65歳										



表5 事務組織 (2016年度)

	部 署 名	専任職員	うち管理職	常勤嘱託職員	兼務職員	派遣職員	その他	計
短期大学業務系	短期大学事務局	1	1					1
	学生部	6	3(1)		2			8
	総務課	4	2		7		1	12
	図書館	3	1(1)		2			5
	合 計	14	7(2)	0	11	0	1	26

[注] 1 ( ) 内数字は、教員が管理職を担当している数を示す。

表6 学科の開設授業科目における専兼比率

[2014年度]

学 科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	31	32
			兼任担当科目数 (B)	0	32	32
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	49.21	50.00
	教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	13.83	15.16	
		兼任担当科目数 (B)	4.66	18.16	22.82	
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	22.20	43.23	39.92	
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	20	21
			兼任担当科目数 (B)	0	16	16
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	55.56	56.76
	教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	12.83	14.33	
兼任担当科目数 (B)		2.5	19.16	21.66		
専兼比率 % (A / (A+B) *100)		37.50	40.11	39.82		
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	8.5	18.5	27
			兼任担当科目数 (B)	11.5	19.5	31
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	42.50	48.68	46.55
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	18.5	19.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	21.32
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	26.65	48.68	48.19
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	30.5	32.5
			兼任担当科目数 (B)	0	51.5	51.5
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	37.20	38.69	
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	13.83	15.16
兼任担当科目数 (B)	3.66		18.16	21.82		
専兼比率 % (A / (A+B) *100)	26.65	43.23	41.00			

[2015年度]

学 科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	30	31
			兼任担当科目数 (B)	0	23	23
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	56.60	57.41
	教養教育	専任担当科目数 (A)	2.33	12.5	14.83	
		兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	22.32	
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	38.90	39.06	39.92	
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	19	20
			兼任担当科目数 (B)	0	17	17
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	52.78	54.05
	教養教育	専任担当科目数 (A)	1	13	14	
兼任担当科目数 (B)		3	19	22		
専兼比率 % (A / (A+B) *100)		25.00	45.68	38.89		
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	8	21	29
			兼任担当科目数 (B)	12	16	28
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	40.00	56.76	50.88
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	12.5	13.83
			兼任担当科目数 (B)	3.66	19.5	21.32
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	26.65	39.06	39.35
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	30	32
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
		専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	37.50	39.02	
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.33	12.5	13.83
兼任担当科目数 (B)	3.66		19.5	23.16		
専兼比率 % (A / (A+B) *100)	26.65	39.06	37.39			

[2016年度]

学 科			必修科目	選択必修科目	全開設授業科目	
法経科	第1部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	28.5	29.5
			兼任担当科目数 (B)	0	27.5	27.5
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	50.89	51.75
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	4.25	19.16	23.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	29.17	40.13	38.39
	第2部	専門教育	専任担当科目数 (A)	1	19	20
			兼任担当科目数 (B)	0	15	15
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	55.88	57.14
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.5	13.5	15
兼任担当科目数 (B)	2.5	18.5	21			
専兼比率 % (A / (A+B) *100)	37.50	42.19	41.67			
生活科学科	食物栄養学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	4	16	20
			兼任担当科目数 (B)	3	20	23
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	57.14	44.44	46.51
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	19.16	22.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.13	39.43
	生活科学 専攻	専門教育	専任担当科目数 (A)	2	31	33
			兼任担当科目数 (B)	0	50	50
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	100.00	38.27	39.76
		教養教育	専任担当科目数 (A)	1.75	12.84	14.59
			兼任担当科目数 (B)	3.25	19.16	22.41
			専兼比率 % (A / (A+B) *100)	35.00	40.13	39.43

- [注] 1 「全開設授業科目」とは、必修科目と選択必修科目をあわせたものである。  
 2 専任担当科目数には、他学科の専任教員による兼担科目も含む。

表7 学科・専攻別の学生定員及び在籍学生数

〔2014年度〕

学科・専攻科	専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	216	1.08	106	110	9	8.18	
	第2部	150	300	158	0.53	79	79	7	8.86	
計		250	500	374	0.75	185	189	16	8.47	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	107	1.07	49	58	5	8.62	
	生活科学専攻	100	200	221	1.11	110	111	8	7.21	
計		150	300	328	1.09	159	169	13	7.69	
合計		400	800	702	0.88	344	358	29	8.10	

2014年5月1日現在

〔2015年度〕

学科・専攻科	専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	210	1.06	104	106	7	6.60	
	第2部	150	300	158	0.54	68	90	17	18.89	
計		250	500	368	0.75	172	196	24	12.25	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	107	1.08	54	53	4	7.55	
	生活科学専攻	100	200	209	1.10	98	111	4	3.60	
計		150	300	316	1.09	152	164	12	7.32	
合計		400	800	684	0.88	324	360	36	10.00	

2015年5月1日現在

〔2016年度〕

学科・専攻科	専攻	入定 学員	収容 定員 (A)	在籍学生 総数 (B)	B/A	在籍学生数				備考
						1年次 学生数	2年次			
							学生数 (C)	留年者数 (内数) (D)	留年率 D/C (%)	
法経科	第1部	100	200	210	1.05	101	109	5	4.59	
	第2部	150	300	170	0.57	87	83	18	21.69	
計		250	500	380	0.76	188	192	23	11.98	
生活科学科	食物栄養学専攻	50	100	105	1.05	51	54	2	3.70	
	生活科学専攻	100	200	208	1.04	111	97	4	4.12	
計		150	300	313	1.04	162	151	6	3.97	
合計		400	800	693	0.87	350	343	29	8.45	

2016年5月1日現在

〔注〕1 2年次学生数のうち、留年者数は、前年度の卒業判定不合格者から退学者等を引いた数。

表8 国家試験・資格試験合格率および附卒業免許取得率

[2014年度]

学科・専攻科	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A*100
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	44	14	31.8
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士	14	2	14.3
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	3	3	100.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	54	48	88.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	1	1	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	3	3	100.0

[2015年度]

学科・専攻科	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A*100
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	40	5	12.5
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士		3	
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	3	3	100.0
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	51	43	84.3
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	4	4	100.0
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	3	3	100.0

[2016年度]

学科・専攻科	国家試験・資格試験の名称	受験者数 (A)	合格者数 (B) (取得者数)	合格率 (%) B/A*100
【国家試験・資格試験】				
生活科学科食物栄養学専攻	管理栄養士	35	7	20.0
生活科学科生活科学専攻	2級建築士			
	社会福祉士			
【卒業免許】				
法経科第1部	中学校教諭(社会科)二種免許	0	0	
生活科学科食物栄養学専攻	栄養士免許	54	50	92.6
生活科学科食物栄養学専攻	栄養教諭二種免許	3	2	66.7
生活科学科生活科学専攻	中学校教諭(家庭科)二種免許	5	5	100.0

[注] 1 受験者数、合格者数が把握できない場合は、空欄とした。

表9 卒業判定

学 科		2014年度			2015年度			2016年度		
		卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A	卒業予定者 (A)	合格者 (B)	合格率 (%) B/A
法経科	第1部	110	96	87.3	106	94	88.7	109	100	91.7
	第2部	79	53	67.1	90	64	71.1	83	65	78.3
計		189	149	78.8	196	158	80.6	192	165	85.9
生活科学科	食物栄養学専攻	58	54	93.1	53	51	96.2	54	54	100.0
	生活科学専攻	111	102	91.9	111	105	94.6	97	90	92.8
計		169	156	92.3	164	156	95.1	151	144	95.4
合計		358	305	85.2	360	314	87.2	343	309	90.1

卒業予定者数は、各年度とも5月1日現在

表10 就職・進学状況

学 科	専攻・部	進 路	2014年度	2015年度	2016年度		
法経科	第1部	就職	民間企業	51	55	64	
			官公庁	7	8	11	
			上記以外	0	0	0	
		進学	他大学編入	23	21	15	
			上記以外	0	2	2	
			そ の 他	14	5	8	
	合 計			95	91	100	
	第2部	就職	民間企業	15	18	17	
			官公庁	2	3	0	
			上記以外	0	0	0	
		進学	他大学編入	15	15	14	
			上記以外	0	2	1	
			そ の 他	21	20	28	
合 計			53	58	60		
法経科 計			148	149	160		
生活科学科	食物栄養学 専攻	就職	民間企業	42	45	40	
			官公庁	0	2	0	
			上記以外	0	0	0	
		( A )			( 25 )	( 29 )	( 28 )
		進学	他大学編入	7	3	4	
			上記以外	2	0	4	
	そ の 他		3	0	5		
	合 計			54	50	53	
	生活科学 専攻	就職	民間企業	73	72	44	
			官公庁	1	5	2	
			上記以外	0	0	0	
		進学	他大学編入	14	10	21	
			上記以外	3	6	2	
			そ の 他	8	12	20	
		合 計			99	105	89
生活科学科 計			153	155	142		

[注] 1 「その他」は、当該学科の各年度の卒業生（9月卒業を含む）のうち就職・進学のいずれもしないものの人数を示す。

「(A)」は、教職や栄養士等の有資格者として職業に就いた卒業生数を示す。

表11 学科の退学者・休学者数

【退学者】

学 科	専 攻	2014年度				2015年度				2016年度			
		1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)	1年次	2年次	合計	退学率 (%)
法経科	第1部	6	7 (4)	13	6.0	0	7 (3)	7	3.3	3	3 (1)	6	2.9
	第2部	8	9 (2)	17	10.8	4	8 (3)	12	7.6	4	9 (4)	13	7.6
計		14	16 (6)	30	8.0	4	15 (6)	19	5.2	7	12 (5)	19	5.0
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0 (0)	0	0.0	2	0 (0)	2	1.9	0	0 (0)	0	0.0
	生活科学専攻	3	5 (2)	8	3.6	5	2 (1)	7	3.3	2	4 (2)	6	2.9
計		3	5 (2)	8	2.4	7	2 (1)	9	2.8	2	4 (2)	6	1.9
合 計		17	21 (8)	38	5.4	11	17 (7)	28	4.1	9	16 (7)	25	3.6

【休学者】

学 科	専 攻	2014年度			2015年度			2016年度		
		1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計	1年次	2年次	合計
法経科	第1部	1	2 (1)	3	0	0 (0)	0	0	0 (0)	0
	第2部	4	1 (0)	5	0	0 (0)	0	0	1 (1)	1
計		5	3 (1)	8	0	0 (0)	0	0	1 (1)	1
生活科学科	食物栄養学専攻	0	0 (0)	0	0	0 (0)	0	0	0 (0)	0
	生活科学専攻	0	4 (1)	4	0	1 (1)	1	0	0 (0)	0
計		0	4 (1)	4	0	1 (1)	1	0	0 (0)	0
合 計		5	7 (2)	12	0	1 (1)	1	0	1 (1)	1

- [注] 1. ( ) 内の数字は3年次以上生の学生数を内数で示したもの。  
 2. 退学率については、各年度の5月1日現在の学生数に占める割合とする。  
 3. 休学者数は延べ人数で示した。



表12 学科の志願者・合格者・入学者数の推移

		入試の種類	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	過去5年 間におけるA/B の平均	
法 経 科	第 1 部	推薦入試	志願者	45	61	71	73	71	103.0%
			合格者	41	50	50	53	54	
			入学者	41	50	50	51	54	
			入学定員	50	50	50	50	50	
		一般入試	志願者	118	130	122	99	128	
			合格者	73	71	67	69	70	
			入学者	37	43	43	45	38	
			入学定員	40	40	40	40	40	
		センター利用入試	志願者	86	90	49	48	45	
			合格者	56	34	25	24	21	
			入学者	27	13	11	6	6	
		第1部 計	志願者	249	281	242	220	244	
	合格者		170	155	142	146	145		
	入学者(A)		105	106	104	102	98		
	入学定員(B)		100	100	100	100	100		
	A/B		1.05	1.06	1.04	1.02	0.98		
	第 2 部	推薦入試	志願者	21	17	24	25	25	53.3%
			合格者	20	15	20	23	22	
			入学者	14	13	14	16	11	
			入学定員	30	30	30	30	30	
一般入試		志願者	34	39	24	23	38		
		合格者	29	32	20	19	29		
		入学者	27	29	18	19	26		
		入学定員	40	40	40	40	40		
センター利用入試		志願者	55	62	45	49	51		
		合格者	50	58	43	46	50		
		入学者	30	26	25	31	33		
		入学定員	50	50	50	50	50		
社会人特別選抜		志願者	12	12	13	23	18		
		合格者	12	12	11	21	17		
		入学者	10	12	11	20	15		
		入学定員	30	30	30	30	30		
第2部 計		志願者	122	130	106	120	132		
		合格者	111	117	94	109	118		
	入学者(A)	81	80	68	86	85			
	入学定員(B)	150	150	150	150	150			
	A/B	0.54	0.53	0.45	0.57	0.57			
学科 合計	志願者	371	411	348	340	376	73.2%		
	合格者	281	272	236	255	263			
	入学者(A)	186	186	172	188	183			
	入学定員(B)	250	250	250	250	250			
	A/B	0.74	0.74	0.69	0.75	0.73			

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

		入試の種類		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	過去5年 間におけるA/B の平均
生活 科学 科	食物 栄養 学 専 攻	推薦入試	志願者	33	37	42	52	29	102.4%
			合格者	22	20	21	21	21	
			入学者	22	20	21	21	21	
			入学定員	20	20	20	20	20	
		一般入試	志願者	65	70	79	81	47	
			合格者	43	45	49	42	39	
			入学者	30	27	31	27	21	
			入学定員	25	25	25	25	25	
		センター利用入試	志願者	16	18	18	11	14	
			合格者	5	12	10	7	13	
			入学者	2	2	2	3	6	
			入学定員	5	5	5	5	5	
		専攻計	志願者	114	125	139	144	90	
			合格者	70	77	80	70	73	
			入学者 (A)	54	49	54	51	48	
			入学定員 (B)	50	50	50	50	50	
	A/B		1.08	0.98	1.08	1.02	0.96		
	生活 科学 専 攻	推薦入試	志願者	35	37	34	44	26	104.0%
			合格者	33	37	34	42	26	
			入学者	33	37	34	42	26	
入学定員			45	45	45	45	45		
一般入試		志願者	73	68	56	72	65		
		合格者	67	60	53	54	61		
		入学者	39	42	31	30	36		
		入学定員	35	35	30	30	30		
センター利用入試		志願者	75	92	62	125	70		
		合格者	55	51	60	54	68		
		入学者	26	20	29	31	27		
		入学定員	15	15	20	20	20		
関連分野特別選抜		志願者	9	7	2	6	6		
		合格者	7	7	2	6	6		
		入学者	7	7	2	6	6		
		入学定員	5	5	5	5	5		
社会人特別選抜		志願者	2	4	2	3	1		
		合格者	2	4	2	2	0		
		入学者	1	4	2	2	0		
		入学定員	0	0	0	0	0		
専攻計	志願者	194	208	156	250	168			
	合格者	164	159	151	158	161			
	入学者 (A)	106	110	98	111	95			
	入学定員 (B)	100	100	100	100	100			
	A/B	1.06	1.10	0.98	1.11	0.95			
学科 合計	志願者	308	333	295	394	258	103.5%		
	合格者	234	236	231	228	234			
	入学者 (A)	160	159	152	162	143			
	入学定員 (B)	150	150	150	150	150			
	A/B	1.07	1.06	1.01	1.08	0.95			
短期大学合計	志願者	679	744	643	734	634	84.6%		
	合格者	515	508	467	483	497			
	入学者 (A)	346	345	324	350	326			
	入学定員 (B)	400	400	400	400	400			
	A/B	0.87	0.86	0.81	0.88	0.82			

[注] 2 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。

表13 学科の入学者の構成 (2017年度)

学 科	専 攻		入 学 者 数					備 考
			一般入試	推薦入試	センター 利用入試	社会人特 別選抜	関連分野 特別選抜	
法経科	第1部	入学定員	40	50	10			100
		入学者数	38	54	6			98
		計に対する割合	38.8%	55.1%	6.1%	%	%	100.0%
	第2部	入学定員	40	30	50	30		150
		入学者数	26	11	33	15		85
		計に対する割合	30.6%	12.9%	38.9%	17.6%	%	100.0%
生活科学科	食物栄養学専攻	入学定員	25	20	5			50
		入学者数	21	21	6			48
		計に対する割合	43.8%	43.8%	12.4%	%	%	100.0%
	生活科学専攻	入学定員	30	45	20	0	5	100
		入学者数	36	26	27	0	6	95
		計に対する割合	37.9%	27.4%	28.4%	0.0%	6.3%	100.0%
	計	入学定員	55	65	25	0	5	150
		入学者数	57	47	33		6	143
		計に対する割合	39.9%	32.9%	23.1%	0.0%	4.2%	100.0%
合 計	入学定員	135	145	85	30	5	400	
	入学者数	121	112	72	15	6	326	
	計に対する割合	37.1%	34.4%	22.1%	4.6%	1.8%	100.0%	

2017年4月6日現在

[注] 1 各入学定員が若干名の場合は「0」とした。また、当該入試制度を導入していない場合は、空欄とした。

表14 学生相談室利用状況

施設の名称	専任 スタッフ 数	非常勤 スタッフ 数	週当たり 開室日数	年間 開室日数	開室時間	年間相談件数			備 考
						2014年度	2015年度	2016年度	
学生相談室	0	1	0.5	23	10 : 00 ~ 17:00	91	115	98	臨床心理士

表15 奨学金給付・貸与状況 (2016年度)

(単位:千円)

奨学金の名称	給付・貸与 の別	支給対象 学生数 (A)	在籍学生 総数 (B)	在籍学生数に 対する比率 $A/B*100$	支給総額 (C)	1件あたり支給額 $C/A$
日本学生支援機構奨学金	貸与	218	693	31.5%	167,557	769
島根県育英会	貸与	1		0.1%	840	840
岐阜県選奨生奨学金	貸与	1		0.1%	192	192
伊勢市奨学金	給付	1		0.1%	96	96
四日市市奨学	貸与	1		0.1%	28	28
計		222	693	32.0%	168,713	760

表16 授業料免除状況

(人)

年度		2014年度		2015年度		2016年度	
学期		前期	後期	前期	後期	前期	後期
希望者		25	48	27	51	28	38
全額免除	総数	11	13	7	21	13	17
	法経科第1部	5	6	2	6	3	5
	法経科第2部	2	4	1	5	2	2
	生活科学科	4	3	4	10	8	10
	1年次	0	6	0	10	0	5
	2年次	11	7	7	11	13	12
半額免除	総数	12	31	16	20	13	18
	法経科第1部	4	10	7	6	1	2
	法経科第2部	1	4	4	4	3	3
	生活科学科	7	17	5	10	9	13
	1年次	0	12	0	9	0	5
	2年次	12	19	16	11	13	13
不採用		2	4	4	10	2	3

表17 教員研究費

学科・専攻科等	研究費の内訳	2014年度			2015年度			2016年度			
		研究費(円)	研究費総額に対する割合	教員1人あたりの額	研究費(円)	研究費総額に対する割合	教員1人あたりの額	研究費(円)	研究費総額に対する割合	教員1人あたりの額	
法経科	学内	研究費総額	5,460,000	100%	390,000	5,460,000	100%	390,000	5,460,000	100%	390,000
		経常研究費	3,430,000	63%	245,000	3,430,000	63%	245,000	3,430,000	63%	245,000
		学内共同研究費			0			0			0
	学外	経常研究費	2,030,000	37%	145,000	2,030,000	37%	145,000	2,030,000	37%	145,000
		科学研究費補助金			0			0			0
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金			0			0			0
		民間の研究助成財団等からの研究助成金			0			0			0
		奨学寄附金			0			0			0
		受託研究費			0			0			0
		共同研究費			0			0			0
その他			0			0			0		
生活科学科	学内	研究費総額	6,420,000	100%	428,000	6,960,000	100%	435,000	8,740,000	100%	1,015,000
		経常研究費	2,925,000	46%	195,000	3,120,000	45%	195,000	3,120,000	36%	195,000
		学内共同研究費			0			0			0
	学外	経常研究費	2,175,000	34%	145,000	2,320,000	33%	145,000	2,320,000	26%	145,000
		科学研究費補助金	1,320,000	21%	88,000	1,520,000	22%	95,000	2,800,000	32%	175,000
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金			0			0			0
		民間の研究助成財団等からの研究助成金			0			0			0
		奨学寄附金			0			0	500,000	6%	500,000
		受託研究費			0			0			0
		共同研究費			0			0			0
その他			0			0			0		

- [注] 1 「経常的経費」は、個人研究費の他、旅費、図書購入費、機器備品費、研究用消耗品費、アルバイトなどへの謝金等を含む。
- 2 「学内共同研究費」は、競争的な共同研究費を示す。
- 3 「学外の経常研究費」は、教育振興会からの研究費・旅費補助を含む。

表18 科学研究費の採択状況

学科	文 科 省 科 学 研 究 費								
	2014年度			2015年度			2016年度		
	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率(%) B/A*100	申請 件数(A)	採択 件数(B)	採択率(%) B/A*100
法経科	1	0	0.0	0	0	0.0	1	0	0.0
生活科学科	4	1	25.0	1	0	0.0	2	1	50.0
計	5	1	20.0	1	0	0.0	3	1	33.3

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみ示す。



表19 教員研究室の状況（2016年度）

学 科	室 数			総面積 (m <sup>2</sup> )	1室あたりの 平均面積 (m <sup>2</sup> )		専任教員数  (B)	個室率(%)  A/B*100	教員1人あた りの平均面積 (m <sup>2</sup> )	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
法経科	14	2	16	353.0	19.5	40.0	13	108%	27.2	
生活科学科	13	1	14	381.9	26.9	32.5	16	81%	23.9	3
計	27	3	30	734.9						

[注] 1 「備考」欄には、個室を持たない教員数を示す。

表20 専任教員の担当授業時間数（2016年度）

法経科（14人）

教員 区分	教授	准教授	講師	助教	備考
最高	14.4 授業時間	12.0 授業時間			1 授業時間:45分
最低	8.0 授業時間	0.0 授業時間			
平均	11.4 授業時間	8.1 授業時間			

生活科学科（15人）

教員 区分	教授	准教授	講師	助教	備考
最高	13.1 授業時間	12.1 授業時間		4.1 授業時間	1 授業時間:45分
最低	9.1 授業時間	0.0 授業時間		0.1 授業時間	
平均	11.3 授業時間	7.4 授業時間		2.1 授業時間	

[注] 1 表3で算出した前期の毎週授業時間数をもとに、1週間あたりの授業時間数を記載した。

[注] 2 在外研修及び休職、並びに後期就職者を含む。

表21 公開講座の開設状況

講座名	年間開設講座数(A)			募集人員(延べ数)			参加者(延べ数)(B)			1講座当たりの 平均受講者数 (B)/(A)		
	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
オープンカレッジ	9	10	10	540	600	600	302	448	562	34	45	56
地域連携講座	2	2	2	120	120	120	87	121	123	44	61	62
出前講座	14	20	26	668	849	957	668	849	957	48	42	37
計	25	32	38	1,328	1,569	1,677	1,057	1,418	1,642	42	49	52

表22 校地、校舎、講義室・演習室等の面積（2016年度）

校 地 ・ 校 舎				講 義 室 ・ 演 習 室 等	
校地面積 (m <sup>2</sup> )	設置基準上必要校地面積 (m <sup>2</sup> )	校舎面積 (m <sup>2</sup> )	設置基準上必要校舎面積 (m <sup>2</sup> )	講義室・演習室・学生自習室総数	講義室・演習室・学生自習室総面積 (m <sup>2</sup> )
24,871m <sup>2</sup>	8,000m <sup>2</sup>	6,879m <sup>2</sup>	5,700m <sup>2</sup>	27	2,530m <sup>2</sup>

[注] 1 校舎面積には、講義室、演習室、学生実習室、実験・実習室、研究室、附属図書館（書庫、閲覧室、事務室）、管理関係施設（学長室、応接室、事務室、医務室等）、大学ホール、廊下、便所等を含む。

表23 学科・専攻毎の講義室・演習室等の面積・規模（2016年度）

講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積 (㎡)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	学生総数	在籍学生1人あ たり面積 (㎡)	備考
講義室			生活専用				
			法経専用				
	11	1,124	共用	940	526	2.14	
演習室	1	45	生活専用	12	316	0.14	
	5	75	法経専用	60	210	0.36	
	2	160	共用	75	526	0.30	
実験室	2	265	生活専用	100	316	0.84	
			法経専用				
			共用				
実習室	5	700	生活専用	241	316	2.22	
			法経専用				
	1	161	共用	52	316	0.51	
体育館	1	1,519	共用				

表24 図書資料の所蔵数（2016年度）

図書館の名称	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去3年間の図書受け入れ状況			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数（内数）	内国書	外国書			2014年度	2015年度	2016年度	
三重短期大学附属図書館	93,410	35,000	105種類	32種類	920種類	0種類	2,145	2,048	1,197	

[注] 1 視聴覚資料の蔵書数は、タイトル数を示す。

表25 学生閲覧室等の面積・座席数（2016年度）

図書館の名称	学生閲覧室	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の学習室の 座席数	備考
	座席数 (A)				
三重短期大学附属図書館	76	800	9.5	0	

表26 図書館利用状況

図書館の 名称	専任 スタッ フ数	非常勤 スタッ フ数	年間 開館日 数	開館時間	年間利用者数(延べ数)			年間貸出冊数		
					2014年度	2015年度	2016年度	2014年度	2015年度	2016年度
三重短期大 学 附属図書館	2 (2)	1.5 (1.5)	225	月～金 8:30～21:00	3,558人	3,343人	3,249人	6,340冊	6,125冊	6,003冊
				土 10:30～19:00 (1月・7月第3土曜日のみ)	教職員 305 学生	教職員 337 学生	教職員 289 学生	教職員 601 学生	教職員 661 学生	教職員 783 学生
				日祭日	3,253	3,006	2,960	5,739	5,464	5,220
				長期休暇中 8:30～17:00						

[注] 1 ( ) 内数字は司書の資格を有するものの人数を示す。

2 年間利用者数・貸出し冊数には、一般開放による地域住民等は含まない。



表27 歳入・歳出決算表

(円)

歳入・出	内訳	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
歳入合計		546,821,625	556,310,210	591,250,490	611,114,496	551,468,097	539,918,913	631,997,000
	授業料	224,207,500	221,812,500	217,005,000	223,595,500	217,225,000	219,779,000	216,506,000
	入学料	52,575,200	62,946,000	50,357,000	52,150,400	55,925,100	53,821,000	53,851,000
	入学検定料	12,052,000	12,287,000	13,562,000	11,634,000	13,348,000	11,513,000	12,660,000
	その他歳入	7,722,662	8,039,977	45,614,437	8,782,133	7,959,822	7,894,488	62,719,000
	一般財源	250,264,263	251,224,733	264,712,053	314,952,463	257,010,175	246,911,425	286,261,000
歳出合計		546,821,625	556,310,210	591,250,490	611,114,496	551,468,097	539,918,913	631,997,000
	①一般職給	437,898,667	436,327,476	432,240,834	435,419,791	433,581,648	418,798,765	445,651,000
	②大学管理運営事業	78,242,995	81,962,547	81,971,330	85,416,966	85,099,170	85,214,101	93,269,000
	③図書館管理運営事業	10,767,335	10,936,070	10,727,457	10,918,489	10,372,135	11,140,792	12,819,000
	④地域貢献推進事業	1,332,517	1,250,684	1,266,010	1,482,830	1,102,125	765,312	1,421,000
	⑤公開講座運営事業	665,724						
	⑥地域問題研究事業	2,210,326	2,341,598	2,307,389	2,361,986	2,355,300	2,393,756	2,517,000
	⑦教育研究関係事業	13,607,832	12,927,675	12,885,876	13,286,855	12,912,875	12,981,364	13,270,000
	⑧施設維持補修事業	2,096,229	10,564,160	49,851,594	62,227,579	6,044,844	8,624,823	63,050,000
	⑨施設整備事業							

(各年決算資料より作成 2017年度は予算額)

表28 教授会開催状況 (2016年度)

開催年月日	定例・臨時の別	出席数(人)	欠席数(人)	審議事項
4/21	定例	33	3	1 法経科専任教員の公募について 2 休・退学願について 3 既修得単位の認定について 4 平成28年度各種委員会委員について 5 清道准教授の休職について 6 その他(地域問題研究所研究員の承認について)
5/19	定例	33	3	1 法経科専任教員の公募について 2 退学願について 3 人材評価制度について 4 その他(高等教育機関魅力向上支援補助金について)
6/16	定例	33	2	1 休学願について
7/21	定例	32	3	1 退学願について 2 平成29年度前期行事予定(案)について 3 清道准教授の休職について 4 服務について
8/4	臨時	33	3	1 法経科教員人事について 2 退学願について
8/24	臨時	26	9	1 法経科教員公募(第2次選考)について 2 退学願について 3 その他(三宅教授の在外研修に係る担当教員の変更について)
9/12	臨時	29	6	1 平成28年9月卒業判定について 2 服務について
9/29	臨時	31	4	1 平成29年度関連分野特別選抜試験合否判定について 2 退学願について 3 清道准教授の休職願について
10/20	定例	31	5	1 法経科教員人事について 2 退学願について 3 人材評価制度について 4 その他(学長選挙管理委員会について) 5 その他(平成29年度在外研修について)
10/27	臨時	32	4	1 平成28年度関連分野特別選抜試験合否判定について 2 清道准教授の休職願について 3 平成28年度予算(政策的経費)について
11/17	定例	34	2	1 生活科学科教員人事について 2 非常勤講師の採用について 3 退学願について 4 学長選挙について 5 平成29年度開設講座表について 6 在外研修の承認について
11/27	臨時	29	7	1 平成29年度推薦入学者及び社会人特別選抜入学試験の合否判定について
12/15	定例	32	4	1 非常勤講師の採用について 2 平成29年度開設講座表、時間割について 3 学長候補者の承認について
1/19	定例	31	5	1 非常勤講師の採用について 2 平成29年度開設講座表・時間割について 3 平成29年度行事日程について 4 平成29年度三重短期大学運営方針について 5 退学願について 6 学長選挙投票結果について 7 清道准教授の休職願について 8 服務について

2/8	臨時	32	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法経科第1部、生活科学科一般入試合否判定について</li> <li>2 法経科教員公募（1次選考）について</li> <li>3 生活科学科教員公募（1次選考）について</li> <li>4 退学願について</li> <li>5 その他（オープンキャンパスの日程について）</li> </ol>
2/21	臨時	31	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法経科教員公募（2次選考）について</li> <li>2 生活科学科教員公募（2次選考）について</li> <li>3 非常勤講師の採用について</li> <li>4 平成29年度開設講座表・時間割について</li> <li>5 退学願について</li> <li>6 再入学希望者に係る審査結果について</li> </ol>
2/24	臨時	30	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法経科第1部、生活科学科大学入試センター選抜試験合否判定について</li> <li>2 平成29年度三重短期大学3ポリシーについて</li> <li>3 障がいをもつ学生への支援に関する基本方針について</li> <li>4 学生部長の改選について</li> <li>5 附属図書館長の改選について</li> </ol>
3/2	臨時	31	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成28年度卒業判定について</li> <li>2 平成28年度栄養士免許取得要件の判定について</li> <li>3 平成28年度教員免許取得要件の判定について</li> </ol>
3/13	臨時	31	6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成29年度法経科第2部（一般、社会人）及びセンター試験利用（Ⅱ期）入試合否判定について</li> <li>2 非常勤講師の採用及び昇任について</li> <li>3 平成29年度生活科学科開設講座表及び時間割について</li> <li>4 退学願について</li> <li>5 法経科転部希望者の選考結果について</li> </ol>
3/22	臨時	30	6	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 競争的資金等の不正防止のための行動規範（案）について</li> <li>2 研究倫理規定（案）について</li> <li>3 FD・SD活動推進委員会規程（案）について</li> <li>4 生活科学科専任教員の公募について</li> <li>5 退学願について</li> <li>6 平成29年度キャリア支援方針（案）について</li> <li>7 名誉教授の承認について</li> <li>8 教員資格審査委員会委員の改選について</li> </ol>

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科	職名：教授	氏名：竹添 敦子
I 研究活動		
1 研究課題：山本周五郎研究、文学とエンターテインメントの接点に関する研究		
2 研究活動実績		
著書		
論文	「山本周五郎初期ペンネーム再考 — 『火星人の地球襲撃』をめぐって—」三重短期大学法経学会『三重法経』第149号 2017年3月20日	
その他		
学会等報告		
共同研究 助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：「文学Ⅰ」（共通・昼前期）、「文学Ⅰ」（共通・夜前期）、「文学Ⅱ」（共通・昼後期）、「文学Ⅱ」（共通・夜後期）、「独語Ⅰ」（基礎・昼通年）、「独語Ⅰ」（基礎・夜通年）、「比較文化論」（共通・昼前期）、「比較文化論」（共通・夜前期）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	三重短期大学文学同好会顧問	
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入を希望する学生に、論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。	
教育上の工夫	<p>「文学Ⅰ」（昼）昼食後の眠い時間帯に大教室という受講環境でありながら、学生には概ね満足してもらえた講義であった。これはテキストの持つ力が大きいのであろう。学生にとって興味深く取り組むことのできた作品群であったと思う。2度、短めの映像を観てもらったのだが、そのことで理解が深まったとする意見もあった。このことから講義の流れにはメリハリが必要だと感じた。大教室で自分の意見を表明するのは学生にとってなかなか難しい。毎回プリントに返事を書くことで対応するしかないが、他の先生方の手法についても学びつつ、新たな方向を模索したい。</p> <p>（夜）毎回プリントに意見をしっかりと書いてくれる学生が多く、時には裏にまで回っていて、うっかり読み忘れてしまうこともあるほどだった。しかも、こちらの返答にもまた返事がかかれており、意見交換も期待以上だった。一日の最後の講義であるため、終了時間を気にする学生が多く、プリントは時間調整に有効であった。受講生からは「文学作品の行間を読むという訓練になった」「作品を味わうことの意味が分かった」との意見もあり、一定の成果が得られたと思う。</p>	
	<p>「文学Ⅱ」（昼）テキストは時代小説ではあったが、自分たちと同世代を主人公にした作品を扱ったせいか、反応が良かった。また、登場人物が遭遇する困難についても、これからの人生を考えるうえで参考になったという意見が寄せられた。作品をじっくり読み込むことで、一方的な思い込みでなく、さまざまな方向から考えをまとめてゆく訓練ができたように思う。しっかりとテキストに向き合って、先へ先へと読み進める学生もおり、嬉しい受講姿勢であった。プリントはテーマに即した詩を選んだ。毎回の講義に合致する内容、合致する長さの詩を選ぶのは大変な労力を要したが、学生の反応が良く、遊び甲斐があった。プリントに感想を書く作業を通じて確実に文章力も上達しており、有効な方法だと思っている。</p> <p>（夜）学生からは教員の熱意について高い評価を頂戴している。伝えたいことがありあまるくらいで、こちらも情熱的に講義ができた。年齢層が大きく二分される受講生であるが、毎回のレポートにさまざまな意見が記入されており、ほほえましい意見やシビアな指摘もあり、大変参考になった。「本を読むのがきらいだったのに、読み方が分かって読書が好きになった」「一人の作家を集中して読むという訓練から、作品の面白さを発見してゆく過程を学んだ」という意見があり、講義の目的は達成できたと考えている。来年度もこの方法で取り組みたい。</p>	
	<p>「独語Ⅰ」（昼）外国語クラスとしては適正な受講生数であったせいか、概ね好評の授業であった。学生の対話練習など、まんべんなく発言してもらえる機会も用意できた。ただ、教室の環境のせいで、映像や音楽を通じてドイツを「知る」要素をほとんど取り入れられなかったのは残念だった。シュトレンを用いてクリスマスの雰囲気をおそらくは味わえたのが唯一の機会であった。想定した項目をこなすためには仕方がないとはいえ、次年度の課題であろう。外国語特有の難しさはあっても、学ぶことのモチベーションを維持し続けた学生が多かった。これを継続することで学生としての基礎力がつく。地道な努力が今後の生活にも良い影響を与えるものと確信している。</p> <p>（夜）受講生数が理想的であったため、授業中には何度も指名し、課題をたっぷりこなしてもらった。どの学生もしっかり予習し、難しい内容にもついてきてくれた。その結果、全員が満足のゆく成績を残した。このままの方法で次年度も継続してゆくつもりであるが、さらに会話練習についての時間配分を心がけ、学生が発言する機会を増やしたい。</p>	
	<p>「比較文化論」（昼）学生の評価はこちらがテーマを掘り切れているか否かも関係する。今年度は1回だけふさわしい映像を探しきれないケースがあり、それが気がかりだった。一人の学生から、どう答えて良いか戸惑ったという回答があり、学生の観察力の鋭さに驚いた。レジュメのプリントと映像、さらには毎回の小レポートという講義構成は、学生にとっては休む暇がない。それなのに懸命になって講義内容を映像から探そうと苦心してくれた。講義のテーマについては映像が補完するので、理解しやすいようだ。現代ではこうした取り組みが不可欠なのだろう。映像の素材を探すのはしんどいが、今後もこの方式を続ける予定である。毎回の小レポートは採点に追われ、返答にやや丁寧さが欠けていた。申し訳なく思っている。</p> <p>（夜）受講生数、教室の大きさ、ともに理想的だった。毎回の小レポートは作成に手一杯で質問まで書き込めなかったようである。また、次の講義の学生が早々に教室に入ってくるのがたびたびで、教室の組みあわせについては考慮してもらいたいとも感じた。「時々たとえや例が飛びすぎて、分かりにくかった」という意見があった。すべての学生に理解できるような事例を採り上げる必要性を感じた。今後できるだけ適切な映像を使用し、講義内容の理解を深めるよう努力したい。</p>	
III 学会等及び社会における主な活動		
1 所属学会：日本独文学会、阪神ドイツ学会、三重文学研究会、りべるたすの会、ゲルマニスティネンの会		
2 社会活動実績		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

地域連携事業	三重短期大学地域連携講座「乱歩の三重 乱歩の名古屋」コーディネーター 2016年6月25日、出前講義（村主公民館）「時代小説は庶民をどう描いているか」2016年7月26日、出前講義（亀山市中央公民館教養講座）「時代小説は庶民をどう描いているか」2016年8月27日、三重短期大学・三重銀総研主催 第10回小論文コンクール選考委員 2016年10月、出前講義（津市ふれあい会館）「昔ばなしを比べてみよう」2017年2月19日
学外審議会委員等	りべるたすの会『りべるたす』編集委員
学外講演会講師等	津演劇鑑賞会「『集金旅行』を楽しむために」、2016年4月12日、津演劇鑑賞会「『セールスマンの死』を観る前に」、2016年6月10日、津演劇鑑賞会「『OH!マイマ』を楽しむために」、2016年8月5日、津演劇鑑賞会「『蟹工船』を観る前に」、2016年10月4日、津演劇鑑賞会「『萩咲く頃に』を楽しむために」、2016年12月6日、津図書館文学講座「最近の芥川賞作品について」2017年1月21日、津演劇鑑賞会「『旅立つ家族』を楽しむために」2017年2月10日
その他の社会活動	三重県ユニセフ協会評議員、津演劇鑑賞会幹事
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター
<p style="text-align: center;">3 一言アピール</p> <p>ライフワークは周五郎作品の定本確定です。周五郎文学のすばらしさを次代に伝えるため、基礎資料づくりに専念します。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：	職名：	氏名：茂木 陽一
<b>I 研究活動</b>		
1 研究課題：伊勢商人論、東海大一揆研究、近代マビキ慣行研究、藩札研究		
2 研究活動実績		
著書	（共著）『三重県史 通史編 近世上』 三重県 2017年3月	
論文	「竹槍でドンと突き出す二分五厘」考 単著 三重法経 147号 2017年3月	
その他		
学会等報告	（その他報告）近世領主法に見る捨子の取扱について 地域問題研究交流集会 2017年2月	
共同研究 助成研究	（助成研究）科研費補助金 基盤研究（B）「行き倒れに関する国際的地域比較史研究—移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析」（代表藤本清二郎 連携研究者）、2016年度地域問題研究所研究員「近代マビキ慣行の比較研究」	
<b>II 教育活動</b>		
1 担当科目：経済史（法1、昼、前期、4）、経済史（法2、夜、前期、4）、歴史学（法1、食采、生活、昼後期、2）、歴史学（法2、夜後期、2）、演習（法1、昼通年、4）、社会科学演習（法2、夜通年、4）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	バドミントン部顧問	
学内教育活動 （その他）		
教育上の工夫	<p>「経済史」（昼）総合評価は、一昨年度・昨年度と比較すると、5.60→5.07→5.50と推移していて、昨年度よりも改善された。項目別に見ると、学生の興味をひく工夫と知的刺激が相対的に低い。この点を改善するために、参加型の授業を工夫する必要性を考えたが、講義内容の精選とパワーでないと時間が確保できないことと、受講者数が少なかったことから、今年度は実施しなかった。</p> <p>経済史は経商コースの基本科目として位置づけられており、授業評価のポイントもおおむね、5.5を確保しているにもかかわらず、受講者が減少している理由がよくわからない。近年の入学者の指向が金融系を中心とした就職に収斂している事とも関連して就職とあまり関係のない科目という認識になっている様にも思えるが、経商コースのカリキュラム上の構成とも関連しているため、単独の科目の工夫だけでは限界がある。</p> <p>来年度に向けては、小テスト・小レポートの活用を軸に、あらためて参加型の授業にする工夫を追求してみたい。</p>	
	<p>「経済史」（夜）総合評価は、一昨年、昨年と比較すると5.55→5.42→5.42と推移していて、ほぼ同じ水準を保っている。学生の興味をひく工夫については、若干の改善を見たが、教員の熱意と知的刺激については、ほとんど改善できなかった。一昨年度から講義録を配布しているが、今年度は後半、講義時間の確保が十分でなかったため、講義録を節単位ではなく、章単位でまとめて配布した。そうすると、各回の講義時に提出させている出欠カードに質問がほとんどでなくなってしまった。復習で講義録を読めばよいと思って質問をしていない可能性もあるが、そうすると、講義での話に集中しなくなってしまう事になる。この点からも、参加型の授業にすることで授業への集中・関心を高める必要があると思われる。</p>	
	<p>「歴史学」（昼）総合評価は、一昨年、昨年と比較すると、4.91→5.53→5.29となっていて、昨年より若干低下した。一昨年の低い評価の原因として731部隊に関連した残酷なシーンの映像に対する拒否反応が一過性のものかどうかの判断を保留していたが、今年度の講義での映像については、731部隊論争に代えて原爆神話論争を取り上げており、単純な比較はできないが、静止画像では残酷な情景も示しているため、動画の影響力というものはあるのかもしれない。</p> <p>今年度の課題として小テストの追試要件については、大学主催の定期試験時のものとは異なり、家族、職場の上司の一筆でも可としたが、それでも追試を希望する者は少なかった。小テストの評価比重は各10点で合計40点分なので、複数回欠席した者は、そのまま講義からドロップしてしまう傾向にある。小テストの回数を増やす工夫も必要かもしれない。</p> <p>また、講義に継続して出席しながら、最後の課題レポートを提出しない学生の割合が目立った。本講義で求めるレポートの水準は相当に高いので、学期末に他の講義の試験やレポートと重なった場合に、あきらめてしまう者が多いのではという印象を持った。来年度からは、この講義を担当しないので工夫のしようがないが、レポートの提出時期をもっと前倒しすることも必要であったかもしれない。</p>	
	<p>「歴史学」（夜）総合評価については、一昨年度・昨年度から5.55→5.61→5.81と推移しており、非常に高い評価を得ている。教材についての評価が相対的に低いが、これは、パワーポイントによるプレゼン資料の配布ではなく、講義録の配布を希望された事に答えられなかったことが関係していると思われる。講義の復習様に、講義録を活用したいという要望に応えるべきであったかもしれないと反省している。</p> <p>歴史学の担当は今年度で最後なので、来期への課題は設定できないが、小テストも受講し、ほぼ毎回出席しているにもかかわらず、最後の課題レポートを提出しなかった学生が相当数いる。1部でもそうであったが、歴史学で求めるレポートの水準は相当高いので、他の科目の試験やレポート提出と重ならない様にする工夫が必要であったと反省している。</p>	
	<p>「演習」（昼）今年度の受講者は留年者1名を含む3名であったが、留年者は結局参加できなかった。したがって2名で行ったので、テキストの輪読、研究報告の頻度が高く、相当苦労したと思うが、最後まで付いてきてくれた。第二希望で入ってきたとしても今年度はモチベーションは高い状態を維持できていた。</p> <p>「社会科学演習」（夜）卒論作成をメインにして、前期はテキストの輪読を行い、後期はその中から卒論テーマを見つけ出させるよう指導した。昨年度のように自分の報告の順番になるとドタキャンするようなモチベーションの低さは見られず、それぞれまじめに取り組んできた。第一希望で参加した者が過半だったので、これがゼミの雰囲気良好なものにしたのだと思われる。</p>	
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>		
1 所属学会：歴史学研究会、日本史研究会、部落問題研究所、三重郷土研究会、民衆思想研究会		
2 社会活動実績		
地域連携事業	出前講座「伊勢商人の歴史」（2016年11月、津中央公民館）	

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

学外審議会委員等	三重県史編纂専門委員、松阪市長谷川家文書調査委員
学外講演会講師等	
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	
<p>3 一言アピール</p> <p>自分の研究は、伊勢・伊賀、あるいは三重県という地域の中にある一揆・貨幣・人口変動といった素材を全体史との相互作用の中で意味づけていくというスタイルです。単なるお国自慢ではない新たな歴史を見る目を模索しています。</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：立石 芳夫
I 研究活動			
1 研究課題：地方制度、地方自治制度			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：行政学（食栄、生活、法Ⅰ、昼、後、4）、行政学（法Ⅱ、夜、前、4）、地方政治論（法Ⅰ、昼、前、4）、自治体行政特論（共通、昼、前、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	クラス担任、オフィスアワー、編入学指導など		
教育上の工夫	「行政学」（昼）日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。また、最も平易な部類のテキストを使用している。		
	「行政学」（夜）日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。また、最も平易な部類のテキストを使用している。		
	「地方政治論」日々の政治報道の内容を織り交ぜて工夫を重ねている。テキストについてもできるだけ平易なものを選んでいく。		
	「自治体行政特論」コーディネートして関与しているため、記載事項特になし。		
	「演習」受講生の学力を考慮して、より基礎的な学習計画を心掛けている。		
	「社会科学演習」受講生の学力を考慮して、標準的な水準のテキストを選定して文献講読につとめた。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本政治学会、日本行政学会、日本地方自治学会、日本科学者会議、東海自治体問題研究所			
2 社会活動実績			
地域連携事業	久居高校での出前授業（17年2月）		
学外審議会委員等	日本科学者会議幹事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
地方分権改革の到達点を踏まえつつ、地方自治制度の現状と課題を考察していくことを意識している。			



三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：村井 美代子
I 研究活動			
1 研究課題：19世紀イギリス・ロマン派の詩			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「英語Ⅰ」（基礎、昼2クラス、通年、2）「英語Ⅱ」（基礎、夜1クラス、通年、2）、「英語講読」（共通、昼1クラス、通年、2）「英語講読」（共通、夜1クラス、通年、2）、「キャリア形成セミナー」（共通、昼1クラス、前期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ソフトテニス部顧問、就活サークル顧問		
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入学を希望する学生に、学習方法などの指導を個別に行った。 TOEIC問題集や関連書の貸し出しを行い、TOEIC学習方法などの指導を個別に行った。		
教育上の工夫	<p>「英語Ⅰ」（法経科第1部・生活科学科：通年）後期は少し落ち着いたが、前期は出席確認するまでの、一部の学生の元気な私語が気になった。同じ状況は他の担当クラスではみられなかった。履修希望を募ってクラス分けを行う際、特定の学科に偏らないよう今後は工夫してみたい。一旦授業が始まると、私語もなく、真面目なクラスで、指名した際の授業準備も良く出来ていた。</p> <p>使用したテキストは、内容の読みやすさにばらつきがあり、テキストの難易度の感じ方が気になっていたが、特に学生からの指摘はなかった。テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と開きが出てしまったことを反省している。後期はテキストの未読部分の中から、読みたい章の希望を募った。シラバス記載の読解順と異なることになったが、読み残してしまうテキストの中で、少しでも学生に興味のある部分は一緒に読んでいけるよう今後は努めたい。</p>		
	<p>「英語Ⅰ」（法経科第2部：通年）後期に遅刻する学生が少しいたことが気になったが、クラス全体の出席率は高く、授業中に私語もなく、真面目なクラスで、英語の得意、不得意は個別にあったが、指名した際の授業準備も良く出来ていた。課題の提出率も高かった。</p> <p>使用したテキストは主に国内のニュースを扱うものだったが、章によって内容の読みやすさにばらつきがあり、また学生のこれまでの英語学習歴にも差異があり、テキストの難易度の感じ方が気になっていた。が、特に「教材」について学生からのコメントはなかった。</p> <p>テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバス記載の予定進捗度と開きが出てしまった点を反省している。後期はテキストの未読部分から、読みたい章の希望を学生から募った。シラバス記載の読解順と異なることになったが、読み残してしまうテキストの中で、少しでも学生に興味のある部分は一緒に読んでいけるよう今後は努めたい。</p>		
	<p>「英語講読」（法経科第1部・2部・生活科学科：通年）全体的に非常に真面目で私語もなく、指名した際の授業準備も良く出来ていた。課題の提出率も高かった。例年のことだが、テキストの進み具合が遅く、後期末にはシラバスに記載した予定進捗度と開きが出てしまった点を反省している。今後はより慎重に年間計画を立てたい。後期はテキストの未読部分から、読みたい章の希望を学生から募った。</p> <p>テキスト内容がやや難解かと思っていたが、「教材」について特に学生からのコメントはなかった。履修希望者が多く、事前にクラス人数調整をする必要のある5コマ目の「英語講読」と、同じテキストを使った法経科第2部の「英語講読」とのクラス人数差がもう少し小さくなるように、今後はオリエンテーション時などに案内したい。</p>		
	<p>「英語講読」（法経科第2部・1部・生活科学科：通年）</p> <p>例年に比べてより入れの学生がやや多かったが、クラス人数が少なく、ほぼ毎時間指名される、学生にとってはあまり良い条件の授業ではなかったと思う。非常に真面目で、授業準備もよくできていた。テキスト内容がやや難解かと思っていたが、教材についてのコメントは特になかった。事前にクラス人数調整をする必要のある5コマ目の「英語講読」とのクラス人数差がもう少し小さくなるよう、オリエンテーション時などに案内したい。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本英文学会、イギリス・ロマン派学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	出前講義（白寿会講座）「あらすじで読みなおすイギリス小説—『ガリバー旅行記』」 2016年6月22日、三重短期大学オープンカレッジ「日本の唱歌とスコットランド民謡」 2016年8月6日		
学外審議会委員等	津市図書館協議会委員、三重県情報公開審査会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

### 3 一言アピール

きっかけは映画や翻訳作品であっても、異文化に興味を持ち、最終的には英語で詩や小説を読む楽しさを共有できればと思っています。

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：楠本 孝
I 研究活動			
1 研究課題：ヘイトスピーチ、外国人法制、精神障害者の犯罪の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	ヘイトスピーチ刑事規制法の保護法益、内田博文先生古稀記念論文集、法律文化社、2016年		
その他			
学会等報告			
共同研究	助成研究：2016年度地域問題研究所研究員「大阪市のヘイトスピーチ規制条例について」		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：刑法（法Ⅰ、昼、前期、4）、刑法（法Ⅱ、夜、前期、4）、刑事政策（法Ⅰ、昼、後期、2）、演習（法Ⅰ、昼、通年）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	野球部顧問		
学内教育活動 (その他)	法経科第1部及び第2部のゼミ生を引率して加古川刑務所見学（2016年9月）		
教育上の工夫	刑法（法Ⅰ）は、講義期間内に予定した項目を講義しきれない。時間を増やせない以上は、一項目にかかる時間数を削るほかないが、それでは味気のない講義になってしまうおそれがある。悩ましい。		
	刑法（法Ⅱ）は、少人数のため講義はしやすいが、学生の理解を高めるために、前回講義の復習から入ることになっているが、そのため進路は遅くなり、やはり講義期間内に予定した項目を講義しきれない。工夫したい。		
	刑事政策（法Ⅰ）は、予定の講義項目をほぼ講義できたが、学生による授業評価アンケートでは「学生の意見や質問」の項目の評価が比較的低い。学生との意見交換の時間を増やしたい。		
	演習は、法学基礎演習で基礎学力を身につけたゼミ生に、自ら設定したテーマについて研究し、その成果をゼミ論文（15,000字）にまとめることを求めた。全員がゼミ論を完成させ、ゼミ論集を刊行できた。		
	社会科学演習は、基礎演習を経っていない2部学生が対象になるので、指導が難しいが、少人数であるので丁寧な指導ができる。一部のゼミ生と同じように、ゼミ論文の作成を求め、全員が論文を完成させ、ゼミ論集を刊行できた。		
	法学基礎演習は、山口厚の「刑法入門」（岩波新書）をテキストにして、これをゼミ生が分担して精読し、内容の検討を全員で行うことで、基礎学力を身につけると同時に、プレゼンテーションの能力や集団討議の能力の獲得を目指し、成果を得た。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本刑法学会、日本犯罪社会学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市青少年問題協議会委員、津市人権施策審議会委員		
学外講演会講師等	津市人権講座「外国人の人権再考」2016年8月		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
排除型社会から包摂型社会への移行、非寛容社会から寛容社会への移行はどのようにすれば可能かについて考えています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：三宅 裕一郎
I 研究活動			
1 研究課題：アメリカにおける軍事に対する立憲的統制			
2 研究活動実績			
著書	（共著）渡辺治・新福祉国家構想研究会編『日米安保と戦争法に代わる選択肢』（大月書店、2016年）		
論文	『『政治的中立性』という名の怪物—ある市議会からの『攻撃』を受けた、ある憲法研究者の『告発』—』『法と民主主義』2016年6月号、「緊急事態条項は『魔法の杖』か?』『法学セミナー』2016年7月号、「安保法制後の憲法改正論が一般市民生活に与えるインパクト—緊急事態条項創設のねらいとはなにか—』『国民医療』332号（2016年）		
その他	クレイグ・マーティン「憲法9条を再生させるための改正論—なぜ、どのように9条を改正するのか—』『立命館平和研究』18号（2017年）（Craig Martin, Change it to Save It: Why and How to Amend Article 9 of the邦訳）		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「日本国憲法」（法Ⅰ、通年、4）、「日本国憲法」（法Ⅱ、前期、4）、「憲法訴訟論」（法Ⅰ、前期、2）、「演習」（法Ⅰ、通年、4）、「社会科学演習」（法Ⅱ、通年、4）、「法学基礎演習」（法Ⅰ、後期、2）、「日本国憲法Ⅰ」（食栄、生活、前期、2）、「日本国憲法Ⅱ」（食栄、生活、後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	「日本国憲法」（法Ⅰ）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。		
	「日本国憲法」（法Ⅱ）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。		
	「憲法訴訟論」（法Ⅰ）関連する具体的なケースを例題として、そこに含まれる憲法上の論点を整理し、裁判所がどのような判断枠組みを用いて結論を出したのかというプロセスを追った上で、裁判所の判断が妥当であったかどうかを最終的に検討する（場合によっては、レポートにまとめてもらう）という形をとっている。		
	「演習」（法Ⅰ）前期は憲法訴訟を扱った簡単なテキストを用いて、それを元にゼミ生に報告をしてもらい、まずは資料の読み込みとプレゼンのスキルを発展させるように努めている。そして、後期はそのスキルを活かして、各自が関心のある研究テーマを設定し、卒業論文をの報告と執筆に力を注いでもらうようにしている。		
	「社会科学演習」（法Ⅱ）前期は憲法訴訟を扱った簡単なテキストを用いて、それを元にゼミ生に報告をしてもらい、まずは資料の読み込みとプレゼンのスキルを発展させるように努めている。そして、後期はそのスキルを活かして、各自が関心のある研究テーマを設定し、卒業論文をの報告と執筆に力を注いでもらうようにしている。		
	「法学基礎演習」（法Ⅰ）憲法訴訟を扱った簡単なテキストを用いて、それを元にゼミ生に報告をしてもらい、まずは資料の読み込みとプレゼンのスキルを発展させるように努めている。		
	「日本国憲法Ⅰ」（食栄、生活）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。		
「日本国憲法Ⅱ」（食栄、生活）講義の冒頭で、その日のテーマにかかわる例題を設定し考える時間を与えた後で、数名の学生に口頭で答えてもらうようにしている。それを通じて、講義のねらいがどこにあるのかを、あらかじめ意識してもらうように心がけている。			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：全国憲法研究会、憲法理論研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
研究に基づく教育の実践を心がけます。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：石原 洋介
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：東アジアにおける金融・経済協力、自由貿易協定（FTA）とWTOルールの研究、世界の南北格差の解決に向けての研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「TPPが脅かす食の安全」三重法経No.149		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「金融論」（法Ⅰ：後期：4単位）、「金融論」（法Ⅱ：前期：4単位）、「国際経済論」（法Ⅰ：前期：2単位）、「国際経済論」（法Ⅱ：後期：2単位）、「演習」（法Ⅰ：通年：4単位）、「社会科学演習」（法Ⅱ：通年：4単位）、農林体験セミナー			
2 教育活動実績			
課外活動指導	短大生協理事、サッカー部顧問、演劇鑑賞同好会顧問		
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	<p>法Ⅰ「金融論」（後期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法Ⅰ「国際経済論」（前期）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法Ⅰ「演習」（通年）：金融論演習では学生の興味関心を喚起するため夏季休暇を利用して日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所の見学に行くこととしており、前期はそれに向けた準備として日本銀行の機能や役割について学ぶようにしている。また、後期は卒論指導（小論文コンクールで代替可）とともに、学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミを行っている。</p> <p>法Ⅱ「金融論」（前期）：金融論は四年制大学の経済学部では三年次以降に配置されることが多いため、短大生には難解な金融理論の解説よりも、いわゆる金融リテラシー教育に重点をおいてカリキュラムを組んでいる。図や表を多用してわかりやすいレジュメ作成に努めている。</p> <p>法Ⅱ「国際経済論」（後期集中講義）：現在の新自由主義的グローバリゼーションがもたらした経済格差の拡大や国際金融の不安定化について理論、歴史、具体的事例、今後の課題と展望を学べるように、カリキュラム編成している。特に私の専門研究対象であるアジア経済を重点的にとりあげ、これまでの研究成果を生かした内容を教授するようにしている。</p> <p>法Ⅱ「社会科学演習」（通年）：社会科学演習では現代グローバリズムがもたらした諸矛盾を学び、どうすれば解決できるのかを学生とともに議論している。また、後期は学生の興味関心に即したテーマを設定してゼミ指導をしている。卒論指導（夏の小論文コンクールで代替可）や学園祭への参加も積極的に取り組んでいる。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本金融学会、経済理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	日本科学者会議三重支部幹事、三重県地方卸売市場運営協議会委員		
学外講演会講師等	「TPP協定の問題を考えるシンポジウム」くらしと協同の研究所主催、2016.9.24（同志社大学）		
その他の社会活動	津市演劇鑑賞会代表幹事		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>新自由主義的グローバル化、とりわけ金融の自由化は世界的な金融危機を頻発させ、そのたびに世界の至る所で経済的・社会的格差が拡大してきました。公正で安定した世界経済・金融システムの構築は現代の優先課題であり、その実現に向けて少しでも貢献できるよう研究を重ねていきたいと思っております。</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：教授	氏名：富田 仁
I 研究活動			
1 研究課題：担保物権法と信託法の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	判例評釈「友人らにより積立てられた代表者名義の銀行預金については、預金代表者を受託者、その他の者を委託者兼受益者とする信託契約が成立し、信託財産と認めることができる。」三重法経148号		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：民法Ⅰ（法Ⅰ、昼、前期、4単位）、民法Ⅰ（法Ⅱ、夜、前期、4単位）、民法Ⅱ（法Ⅰ、昼、後期、2単位）、法学基礎演習（法Ⅰ、昼、後期、2単位）、演習（法Ⅰ、昼、通年、4単位）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4単位）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	生活共同組合三重短期大学支部専務理事（2015年10月～）		
学内教育活動 （その他）	卒業論文の指導作成、クラス担任、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>「民法Ⅰ」（昼）例年通り、講義では教科書にそって授業を進め、わからないところは出席表において質問をするように学生に促している。また、簡略化はされているが、判例を読むことで、民法の社会における位置づけを確認する作業を行なっている。本年度の総合評価は4.86と昨年の4.15よりは、やや良い評価を受けた。一昨年は5.46であったため、授業の進め方や内容を改善する必要があると思われる。特に「板書・話し方」が4.39、「学生の興味を引く工夫」は、4.48と総合評価より低い評価を受けた。これら評価を反映した授業のあり方を考え、来年度にいかしたいと思う。</p>		
	<p>「民法Ⅰ」（夜）法Ⅰ同様に例年通り、講義では教科書にそって授業を進め、わからないところは出席表において質問をするように学生に促している。また、簡略化はされているが、判例を読むことで、民法の社会における位置づけを確認する作業を行なっている。本年度の総合評価は5.23と昨年の5.46よりは、やや低い評価を受けた。一昨年は5.37であったため、授業の進め方や内容を改善する必要があると思われる。特に「板書・話し方」が4.90、「学生の興味を引く工夫」は、4.85と総合評価より低い評価を受けた。これら評価を反映した授業のあり方を考え、来年度にいかしたいと思う。</p>		
	<p>「民法Ⅱ」（昼）本年度は、教科書を使い授業を進めた。民法Ⅰ同様に、わからないところは出席表において質問をするように学生に促している。また、民法Ⅰ同様に簡単な判例を読むことで、民法の理解を深める作業を行なっている。本年度の総合評価は5.05と一昨年よりは5.07よりは、やや低い評価を受けた。2012年度は5.00であったため、授業の進め方や内容について、まだまだ改善する必要があると思われる。特に「板書・話し方」が4.57、「学生の興味を引く工夫」は、4.57と総合評価より低い評価を受けた。これら評価を反映した授業のあり方を考え、来年度にいかしたいと思う。</p>		
	<p>「法学基礎演習」本年度は、民法Ⅰを受講していない学生が数人いたことから、専門用語などを解説しながら、教科書の輪読を行なった。また、無断で欠席をする学生が多いため、欠席をする場合は届け出ることを義務付けたが守られなかった。この点、今後どのように欠席をさせないか課題である。最後に、こちらで提案したテーマについてのレポートを提出をさせた。</p>		
	<p>「演習」（昼）本年度は学生の希望により、物権法の教科書の輪読を行った。また当初の計画通り、後期に入り授業で卒業論文の中間報告などを行ってもらったが、数人が計画を無視し、卒業論文の作成作業を行なわなかった。このため、その後個別の指導を行いながら、期日までに完成させたが、十分な内容となっていないところがある。来年度は、学生に自分にあった計画を立てさせ、卒業論文を作成させようと考えている。</p>		
<p>「社会科学演習」（夜）本年度は学生の希望により、民法に関する事件を輪読してもらい、判決に対して議論をたかかわせる形式で授業を行なった。わからないところは、こちらで解説を加えた。卒業論文作成に当たり、数人が当初の計画を無視し、卒業論文の作成作業を行なわなかった。このため、その後個別の指導を行いながら、卒業論文を期日までに完成させたが、十分な内容となっていないところがある。来年度は、学生に自分にあった計画を立てさせ、卒業論文を作成させようと考えている。</p>			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：私法学会、信託法学会、不動産学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津地方裁判所委員会委員、鈴鹿市空家等対策推進協議会構成員、桑名市行政不服審査会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名古屋市立大学人文社会学部（民法Ⅰ、民法Ⅱ）		
3 一言アピール			
民法の条文になく判例により創設された譲渡担保制度を今後の展望を踏まえ研究しております。また、投資等に用いられる信託を民法的視点から研究しております。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科・行政法		職名：准教授	氏名：藤枝 律子
I 研究活動			
1 研究課題：学校教育における参加			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	『所沢市『育休退園処分』取消訴訟における退園処分執行停止決定』三重法経149号、2017年3月		
学会等報告			
共同研究 助成研究	地方自治研究会報告「地方創生政策と補助金制度」2016年5月7日、地方自治研究会報告「憲法と地方自治体の財政」2016年10月29日		
II 教育活動			
1 担当科目：「行政法」（法Ⅰ、昼、前期、4）、「行政法」（法Ⅱ、夜、後期、4）、「地方自治法」（法Ⅰ、昼、後期、2）、「演習」（法Ⅰ、昼、通年、4）、「法学基礎演習」（法Ⅰ、昼、後期、2）、社会科学演習（法Ⅱ、夜、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	ハイキング同好会顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィサー(金曜日16:10~17:40)、学外演習(裁判傍聴)、卒論作成指導、編入学のための面接試験指導		
教育上の工夫	「行政法Ⅰ部」学生の興味を引くように、テレビのドキュメント番組等を録画したDVDを観る機会を作るようにして、講義に少し変化をもたせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけているつもりです。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。		
	「行政法Ⅱ部」判例だけでなく、新聞記事やテレビのドキュメント番組等の録画を利用して、学生たちの興味を引くように講義に変化を持たせるよう工夫しています。少しでも社会に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ新しい判例や出来事を素材にして授業を組み立てることを心がけています。今後も、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるような講義になるように努力をしたいと思います。		
	「地方自治法」ドキュメンタリー等の視覚教材や新聞の切り抜き等を活用して、地方自治に関心を持ってもらえるように工夫をしています。少しでも自分の住んでいる「まち」に対して興味・関心を持てるよう、できるだけ最近のニュースを素材にして授業を組み立てることを心がけています。授業中には、出来るだけこちらから学生からの発言を促すような問いかけをする等、取り上げたテーマを、多くの学生が身近な問題として考えられるように講義を進めていきたいと思っています。		
	「演習」それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つを選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。		
	「法学基礎演習」ゼミでは、裁判傍聴をして、実際の裁判がどのように行われているか先ず、知ることから始めています。行政判例を、原告、被告、裁判官に分かれてディベートをして、それぞれの視点から判例をみることを学ぶようにしています。		
「社会科学演習」前期の前半では、示した判例のディベートをしてもらい、意見を出し合うことに慣れてきた時点で、それぞれの学生が、卒論のテーマとして、行政判例の一つを選択します。自分が選んだ判例に対する裁判官役を務め、他のゼミ生に原告、被告に分かれて、それぞれの立場から意見を出してもらい、その意見を参考にしながら、卒論を執筆するようにしています。			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本教育法学会、日本公法学会、日本地方自治学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「六法を引いてみよう」(2016年10月1日)		
学外審議会委員等	桑名市情報公開・個人情報保護審査会委員、津市建築審査会委員、三重県個人情報保護審査会委員、三重県収用委員会委員、三重県福祉サービス運営適正化委員会委員、津市いじめ問題対策連絡協議会委員		
学外講演会講師等	桑名市役所職員研修講師「行政法」担当(2016年9月)		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
教育をはじめ、行政は我々にとって身近な存在であるにもかかわらず、遠くに感じられる存在でもあります。行政の活動に対してどのように市民・住民が関心を持ち、関わり、参加していけるか、その可能性を考えていきたいと思っています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：杉山直
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：トヨタの労使関係			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「トヨタの技能系新賃金制度」『三重法経』No.148、2016年11月		
その他	「自動車産業」大原社会問題研究所『2016年版日本労働年鑑』旬報社、2016年6月、「読書紹介 飯島裕子『ルボ 貧困女子』」愛知労働問題研究所『所報』第191号、2016年11月		
学会等報告			
共同研究	地研研究「トヨタの労使関係の研究」		
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：経営学（昼前期）、経営学（夜後期）、人的資源管理論（昼前期）、人的資源管理論（夜後期）、演習（昼通年）、社会科学演習（夜通年）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	卓球部顧問、バレー部顧問		
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー、卒業論文指導		
教育上の工夫	「経営学」（昼前期）：授業の要点を分かりやすくするために、プリントの最後に授業のポイントを箇条書きで示してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「経営学」（夜後期）：授業の要点を分かりやすくするために、プリントの最後に授業のポイントを箇条書きで示してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「人的資源管理論」（昼前期）授業の内容をより深くイメージできるように新聞に掲載された企業の事例をできるだけ多く使用してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「人的資源管理論」（夜後期）授業の内容をより深くイメージできるように新聞に掲載された企業の事例をできるだけ多く使用してきた。また授業で質問の用紙を配布し、質問が出されたら、その都度、説明をしてきた。		
	「演習」テキストの報告の担当は短くし、3週間に1回は報告するようにしてきた。また産業技術記念館の見学とトヨタの工場見学を行い、トヨタの歴史や企業活動を学ぶようにしてきた。		
「社会科学演習」卒業論文の内容を充実させるために、報告開始の時期を早め、2週間に1回、報告するようにしてきた。			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本労務学会、労務理論学会、日本労働社会学会、社会政策学会、北ヨーロッパ学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県男女参画審議会審議委員、労務理論学会幹事		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	名城大学「経営学」（2016年9月～2017年3月）、愛知大学「経営学概論Ⅰ」（2016年4月～9月）、愛知大学「経営学概論Ⅱ」（2016年10月～2017年3月）		
3 一言アピール			
トヨタ生産方式を支えるヒトの管理、特に、賃金制度及び賃金の格差構造について研究してきました。また、そうした制度や格差構造から労使関係に関心をいただき、近年は労使関係を中心に調べています。			



三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：田中 里美
I 研究活動			
1 研究課題：会計制度と法人税制（課税の公平から見た会計の役割に関する研究）、内部留保の経営分析、不正ファイナンスと財務諸表監査			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「監査における不正リスク対応基準と監査手続き実施範囲の拡大－昭和ゴム事件を通して－」『会計理論学会年報』No30 2016年9月、「損益計算書の見方」『経済』No250 2016年7月		
その他			
学会等報告			
共同研究	電力産業の経営分析		
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：会計学（法Ⅰ、昼後期、4）、会計学（法Ⅱ、夜前期、4）、税務会計論（法Ⅰ、昼前期、2）、演習（法Ⅰ、通年、4）、社会科学演習（法Ⅱ、通年、4）、上級簿記（法Ⅰ、昼後期、2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編入学試験における志望理由書の添削や、面接練習を行った。</li> <li>・公務員就職試験における面接練習を行った。</li> <li>・経商コースの1年生、2部の1年生のクラス担任を受け持った。</li> <li>・毎週90分のオフィスアワーを実施した。</li> </ul>		
教育上の工夫	「会計学」（法Ⅰ）：コンピュータールームを使用し、概念的理論的な講義に加えて実務的な講義も行った。学生達が調べてきた決算書分析の結果を一人一人報告の機会を与え、議論した。すべての学生にわかるようにわかりやすい授業を心がけた。		
	「会計学」（法Ⅱ）：会計学の基礎的概念や基礎的理論を講義に加え、コンピューターを利用して実務的な講義も行った。すべての学生にわかるようにわかりやすい授業を心がけた。		
	「税務会計論」（法Ⅰ）：租税の基本的な概念と法人税法の計算の仕方、所得税法の計算の仕方について指導をおこなった。基本的な会計の知識が身につけていないとついてこれないため、中には授業の内容を理解しきれていない学生がいた。		
	「演習」（法Ⅰ）：各人が1本の論文を作成することを目標にゼミの講義を進めた。簿記の検定試験受験希望者には、受験指導も行った。		
	「社会科学演習」（法Ⅱ）：各人が1本の論文を作成することを目標にゼミの講義を進めた。簿記の検定試験受験希望者には、受験指導も行った。		
「上級簿記」（法Ⅰ）：日商簿記検定2級の商業簿記の指導を行った。受講生は集中して勉強していた。			
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本会計研究学会、税務会計研究学会、会計理論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	三重県公益認定等審議会委員2012年7月～、松阪市行財政改革推進委員会委員2015年12月～		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
制度（会計、法人税、監査）の社会的意味を考察し、その制度下での社会的実態を明らかにします。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：金江 亮
I 研究活動			
1 研究課題：経済成長理論			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「マルクス派世代間重複モデルの考察」地研年報 第21号(2016年度)		
その他			
学会等報告	「非代替定理と労働価値説」慶応大学経済学会,2017年1月、「非代替定理と労働価値説」経済理論研究会（京都大学）,2016年12月		
共同研究 助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：「経済原論」（専修科目・昼前期）、「経済原論」（専修科目・夜前期）、「経済学史」（専修科目・昼後期）、「演習」（専修科目・昼前期・昼後期）、「社会科学演習」（専修科目・夜前期・夜後期）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	将棋囲碁部顧問		
学内教育活動 (その他)	第一部「演習」、第二部「社会科学演習」のゼミ生による卒業論文集CD作成		
教育上の工夫	「経済原論」（昼）グラフや図表が多い分かりやすいテキストを使い、板書しています。テキストに付け加えて、学生に分かりやすい具体例を入れるようにしています。		
	「経済原論」（夜）グラフや図表が多い分かりやすいテキストを使い、板書しています。テキストに付け加えて、学生に分かりやすい具体例を入れるようにしています。		
	「経済学史」グラフや図表を多く用いています。また、前期の経済原論の内容ともつなげて紹介し、復習になるように、違った視点から学べるように工夫しています。		
	「演習」「人口と日本経済」（吉川洋・著）をテキストに、少子高齢化の下で日本経済が成長できるのか、財政は大丈夫なのかについて学生と共に取り組んでいます。		
	「社会科学演習」「人口と日本経済」（吉川洋・著）をテキストに、少子高齢化の下で日本経済が成長できるのか、財政は大丈夫なのかについて学生と共に取り組んでいます。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：経済理論学会、日本経済学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
数理的な分析に力を入れています。			

三重短期大学教員研究・教育業績 (2016年度)

所属：法経科		職名：准教授	氏名：大畑 智史
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：支出税構想の活用方法の検討、最適課税論の観点からの租税分析、J.S.ミルの租税論分析			
2 研究活動実績			
著書			
論文	(研究ノート) 「X税の今後の課題:BITCとの関連性について」三重短期大学法経学会『三重法経』148		
その他	(報告書)『マイナンバー制度：今後の課題』、ジー・エル・シーR&C、(評論)「マイナンバー制度の課題：個人情報問題について」三重短期大学附属図書館『図書館だより』44、(「ニュースを読み解く」記事)「軽減税率の導入をめぐって」基礎経済科学研究所『経済科学通信』141		
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：地方財政論(法Ⅰ、昼、前期、2)、地方財政論(法Ⅱ、夜、前期、2)、財政学(法Ⅰ、昼、後期、4)、財政学(法Ⅱ、夜、後期、4)、演習(法Ⅰ、通年、4)、社会科学演習(法Ⅱ、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	1年クラス対象(対象 1部・2部)：主として、進路と授業履修の面談、2年演習履修生対象(対象 1部・2部)：主として、進路と授業履修の面談、2年演習学外学習(対象 1部・2部)：2016年度は志摩市方面(9月実施、自由参加)、2年演習(対象 1部・2部)：サマーフェスティバルへの参加、2年演習(対象 1部・2部)：卒業論文集作成関係(編集担当者を両演習で決定、校正会の実施(ほぼ全員参加))		
教育上の工夫	<p>「地方財政論」(昼)</p> <p>できるだけ各論点(地方債、公会計、他)の重要な点を、関係各種データを参照したりしながら明瞭に伝える。このために、各回において、基本的な、中心となる資料(その回の内容の骨格がよくわかるもの)を提示し、これを、その関係の、板書や各種データや具体的事例などの内容で補足する、といった形で授業を進めている。また、地方財政論の全体像がつかめるよう、各回の内容の関連性へも配慮している。その他、学生の授業内容理解向上のため、毎回の内容が多くなりすぎないように配慮する、授業内容について学生自身で考えてもらう機会をできるだけ設ける、各回の最初数分程度は前回の簡潔なレビューをする、などの取組をしている。</p>		
	<p>「地方財政論」(夜)</p> <p>基本的な工夫のスタンスは「地方財政論」(昼)と同じだが、社会人の受講生が複数居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多い。これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している(地方財政論(昼)でも紹介)。</p>		
	<p>「財政学」(昼)</p> <p>基本的工夫のスタンスは、「地方財政論」(昼)と同様である。</p> <p>&lt;財政学独自の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間テストを入れ、受講生の側、自身の側で、授業の効果を確かめる。</li> <li>・ミクロ経済学やマクロ経済学といった視点(無差別曲線を使用、他)からの説明箇所が地方財政論よりも多いが、そうした点は出てくるたびにできるだけそうした視点の内容を説明する。</li> </ul>		
	<p>「財政学」(夜)</p> <p>基本的な工夫のスタンスは「財政学」(昼)と同じだが、社会人の受講生が複数居られる場合には、そのご経験が活かされた授業内容へのコメントが多い。これは、受講生全員、自身にとって非常に有益で、適宜、授業中に当該コメントを紹介している(財政学(昼)でも紹介)。</p>		
	<p>「演習」(昼)</p> <p>卒業研究ができるだけ深まるような議論を行っている。このために、受講生の関心のこちら側での把握、これと深く関係する資料の配布、2部の議論内容を知る機会の設定(卒業研究経過報告会、卒業研究最終報告会)、などの工夫を行っている。</p>		
	<p>「社会科学演習」(夜)</p> <p>基本的な工夫のスタンスは「演習」(昼)と同様である。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本経済学会、日本租税理論学会、経済理論学会、基礎経済科学研究所、日本科学者会議、The World Association for Political Economy			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携センター オープンカレッジ テーマ「マイナンバー制度の民間活用」(2016年11月5日)		
学外審議会委員等	基礎経済科学研究所『経済科学通信』編集局員、日本科学者会議滋賀支部幹事(会計担当)		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
支出税構想の活用でICT活用は非常に有意義だが、このような視点を考慮し、今後、支出税構想の活用方法をより具体的に分析していきます。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：法経科		職名：准教授	氏名：川崎 航史郎
I 研究活動			
1 研究課題：非正規労働者の生活保障、税・社会保険料等の無申告労働対策			
2 研究活動実績			
著書	（共著）矢野・脇田・木下編『雇用社会の危機と労働・社会保障の展望』 日本評論社 2017年		
論文	日本社会保障法学会31号「適用基準設定の法的考察」法律文化社、2016年5月		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：演習(法Ⅰ・昼・後期・4)、労働法(法Ⅰ・昼・後期・4)、労働法(法Ⅱ・夜・後期・4)、法学基礎演習(法Ⅰ・昼・後期・2)			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	就職・編入学試験対策のために、希望者を集め、週に1回、2時間程度、新聞を購読し、不明な点についての解説を行った。編入学面接のための練習を行った。		
教育上の工夫	「労働法」（法Ⅰ）赴任初年度であるため、学生アンケートの対応はまだ行っていない。従来より、コメントペーパーを工夫し、学生と相互コミュニケーションを図ることを務めている。A4一枚に①教科書の予習、②講義中課題の回答、③講義の復習、④質問・意見などの自由記述欄を設け、毎回、配布して、④の質問には次回以降に回答することを行っている。他の受講生の関心や質問を知ることで、多面的なものの見方や、自分では気づかない問題把握を可能にしている。また、②講義中課題の回答は、できるだけグループディスカッションを行わせているが、このねらいは、受講生同士、意見を出させることで講義への理解を深めることにある。2部に比べて受講生が多く、理解が十分でない学生もいた。コメントペーパーから学習の進展具合を図り、適切にフォローする体制を取りたい。		
	「労働法」（法Ⅱ）赴任初年度であるため、学生アンケートの対応はまだ行っていない。従来より、コメントペーパーを工夫し、学生と相互コミュニケーションを図ることを務めている。A4一枚に①教科書の予習、②講義中課題の回答、③講義の復習、④質問・意見などの自由記述欄を設け、毎回、配布して、④の質問には次回以降に回答することを行っている。他の受講生の関心や質問を知ることで、多面的なものの見方や、自分では気づかない問題把握を可能にしている。また、②講義中課題の回答は、できるだけグループディスカッションを行わせているが、このねらいは、受講生同士、意見を出させることで講義への理解を深めることにある。2部のため受講生が少なく、学生との応答がしやすかったために、講義への理解度はたかくなった。		
	「法学基礎演習」学生からのアンケートはまだないが、基礎知識を身につけるために4人ほどのグループごとに各種関心がある労働問題を報告させた。短大生の生活リズムがわからず、授業の多さや重なりから4人ほどでも集まって準備するのが難しいとの声があり、報告スタイルの改善を行いたい。学外においては労働基準監督署、職業安定所への訪問、過労死遺族の後援会参加など、準備を含めてゼミ生の積極的な参加があり、充実していたと考える。改善すべき点としては、労働法の講義が後期開始ということもあり、知識がない中で、講義との関連を意識しながら理解が深まるような報告を短縮させるようにしていきたい。		
	「演習」後期のみを担当のため、前期担当教員から引き継いだ内容を行った。毎回、一人ずつ報告を行なわせ、ゼミ生との質疑応答を行った。学生アンケートでは、ゼミ生からの様々な意見等に対して適切なフォローがあり、喋りやすかったというものが、ゼミ運営としては成功したと考える。一方、報告ばかりで施設見学等ができなかったことへの不満もあり、次年度以降改善したい。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本社会保障法学会、日本労働法学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	2016年度大阪府社会保険労務士会統一研修講師		
他大学非常勤講師	花園大学・立命館大学・龍谷大学・甲南大学・日本福祉大学・佛教大学		
3 一言アピール			
雇用と社会保障の両輪の再構築による人間らしい生活の確保を法的な視点から研究しています。			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：学長・教授	氏名：東福寺 一郎
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：男女共同参画とジェンダーの心理学、加齢に伴う記憶の変化、生涯学習			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：「発達と学習」（共通・教職、昼、後期、2）、「心理学概論」（生活、昼、前期、2）、「心理学基礎実験」（生活、昼、前期、2）、「福祉心理基礎演習」（生活、昼、後期、2）、「福祉心理演習」（生活、昼、通年、4）、「教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前・事後の指導」（法1・生活、昼、通年、5）、「栄養教育実習、事前事後の指導」（食栄、昼、通年、2）、「教育実践演習」（法1・生、昼、後期、2）、生活科学概論（前期、1コマ）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	硬式テニス部顧問		
学内教育活動 (その他)	<p>「福祉心理演習」において、毎年、フレンテみえにおいてウェルカムセミナーを利用し、男女共同参画について学習している。</p> <p>「福祉心理演習」では、卒業論文を作成し、USBメモリおよびプリントアウトして保存している。</p> <p>オフィスアワーを設定し、学生からの相談を受けている。オフィスアワー以外でも特段の事情がない限り対応している。</p> <p>2012年10月より、学生へのメッセージとして学長室だよりを毎月執筆し、ホームページにアップしている。</p>		
教育上の工夫	<p>発達と学習（全学科、後期） 主に前半を発達、後半を学習の内容について講義した。発達においては、生涯発達の考え方や研究法に始まり、乳児期から老年期に至るまでの発達過程を講じた。また、毎回、その時間に取り上げた発達段階にかかわるDVDを視聴し、講義のまとめとした。このDVD視聴は学生にも好評であった。一方、学習にかかわる領域についてはパワーポイントを用い、簡単なデモ実験を取り入れるなど、学生の興味を引く工夫を行った。毎回、聴講券で出欠をとったが、その際聴講券の裏に、その日の講義に対する感想や意見を求め（強制ではない）、それらの概要を次回のプリントに記載した。その際、質問とみなされる内容については、簡潔に回答を行った。</p> <p>心理学概論（生活科学専攻、前期） テキストとして「ゼロからはじめる心理学・入門」（金沢、市川、作田著、有斐閣）を用い、1時間に1章のペースで講義を行った。毎回、授業の終わりに課題を提示し、全体を振り返る時間を確保した。課題は授業終了後に回収し、コメントをつけた上で、次回に返却することを繰り返した。また、パワーポイントを用い、重要な事柄については視覚的にわかりやすく提示することを心がけた。</p> <p>福祉心理基礎演習（生活科学専攻、後期） テキストとして「高校生に知ってほしい心理学」（宮本、伊藤編著、学文社）を用いた。文献講読については、毎回範囲を指定し、そこを前もって読むとともに、A4判1枚のポートフォリオ用紙にその概要を記載し、演習へ臨むように指導した。演習の時間では、4人くらいずつの班に分け、各自がまとめてきた内容に基づき、討論を行い、その討論内容もポートフォリオに記載させた。また、文献講読とは別に、毎回話題提供者を決め、その学生が興味を持つテーマについて発表を行い、その後、質疑や感想を述べた。その際、全員が1回は発言するようにした。ポートフォリオは、毎回提出させ、次回にコメントをつけて返却した。また、簡単な心理学実験を行ったり、心理学に関するビデオを視聴するなどのアクセントも付けた。</p> <p>福祉心理演習（生活科学専攻、通年） テキストとして「おとなが育つ条件-発達心理学から考える-」（柏木恵子著、岩波新書）を用いた。文献行動については、毎回1章ずつ進めていったが、その際、前もって熟読し、ポートフォリオにまとめることを義務づけた。演習の時間には、そのポートフォリオを基に、4人くらいずつの班に分かれ、討論を行った。また、毎回話題提供者を決め、各自の興味に基づいた発表を行い、その後、発表者の司会のもとで意見交換を行った。その際、必ず1回は発言することを求めた。後期には、各自が卒論テーマを決定し、その作成に取り組んだ。演習では、テーマに応じた発表を行うとともに、研究内容によっては演習の時間に調査や実験を実施した。卒論は、1月の演習の時間に基礎演習を履修している1年生も参加する発表会の中で全員が報告を行い、最終的には卒論集（USBで各自に配布）を作成した。また、夏休み前に三重県男女共同参画センターフレンテみえのウェルカムセミナーを受講し、男女共同参画の基礎を学ぶことを毎年実施している。</p> <p>教育実習Ⅰ・Ⅱ、事前・事後の指導（法経科第1部、生活科学専攻、通年） 平成28年度に教育実習を行った学生は6名で、生活科学専攻に限られていた。事前指導としては、1年次の春休みに1日を使って、全員が模擬授業を行い、相互に批判をする機会を持った。4月からは事前指導として、本学が作成した教育実習の手引きによる指導、教育実習生の様子を撮ったビデオの視聴、三重県総合教育センターに勤務する先生による講話などを通じて、心構えをもたせるとともに、授業練習を再度実施し、授業方法について再確認する場を持った。教育実習期間中は、遠隔地を除き、少なくとも1回は実習校を訪問し、学生の授業を見るようにした。また、教育実習終了後は反省会を開催し、各自の実習の様子を報告した。さらに、レポートを提出させ、教職に対する熱意を確認するようにした。</p>		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

	<p>栄養教育実習、事前事後の指導（食物栄養学専攻、通年） 平成28年度に栄養教育実習を行った学生は3名であった。栄養指導にかかわる専門的内容は山田が担当し、授業方法については山田と東福寺が担当した。実習は後期に入ってからであったが、夏休み前に授業練習を行い、その経験をもとに夏休み中に教材研究を結めるように配慮した。実習は1週間であったが、その間に必ず授業参観を行った。また、実習終了後には生活科学専攻の学生とともに反省会を実施し、またレポートを課し、教職に対する熱意を確認した。</p>
	<p>教職実践演習（法経科第1部、生活科学専攻、後期） 男女共同参画をテーマとする授業を実施した。パワーポイントを用い、クイズやさまざまなデータを用いて、男女共同参画とは何か、何故それを進めていく必要があるのかをわかりやすく講じたつもりである。最後には小テストを実施し、その中で記述式問題として各自の男女共同参画に対する意見を表明させ、講義の理解度を知る一助とした。</p>
	<p>生活科学概論（前期、1コマ） 男女共同参画をテーマとする授業を実施した。パワーポイントを用い、クイズやさまざまなデータを用いて、男女共同参画とは何か、何故それを進めていく必要があるのかをわかりやすく講じたつもりである。最後には小テストを実施し、その中で記述式問題として各自の男女共同参画に対する意見を表明させ、講義の理解度を知る一助とした。</p>
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>	
1 所属学会：日本心理学会、日本教育心理学会、日本認知心理学会	
2 社会活動実績	
地産連携事業	鈴鹿厚生病院にて出前講座「心理学実験」、名張市百笑会にて出前講座「落語に学ぶ心理学」、津市人権課出前講座「男女共存社会のすすめ」
学外審議会委員等	三重県社会教育委員（座長）、津市男女共同参画審議会会長、桑名市男女共同参画審議会会長、いなべ市男女共同参画推進委員会委員長、亀山市男女共同参画審議会副会長、津市国際交流協会津支部理事、内閣府男女共同参画推進連携会議委員、日本高等教育評価機構短期大学判定委員会委員、第76回国民体育大会三重県準備委員会委員、亀山市生涯学習審議会副会長、津市地域自立支援協議会委員、三重県生涯学習センター運営審議会委員
学外講演会講師等	全国公立短期大学協会事務職員中央研修会講師「視点を変えてみる」、津市男女共同参画フォーラム講師「男女共同参画都市宣言から10年」
その他の社会活動	全国公立短期大学協会理事・会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問会議顧問
他大学非常勤講師	放送大学三重学習センター（面接授業担当）
3 一言アピール	
<p>近年は男女共同参画やジェンダーを中心とした研究ならびに社会活動を続けています。学長であるため、研究活動に割く時間は限定されますが、他の2つのテーマを含め、心理学の視点から少しずつでも成果を残していきたいと考えています。</p> <p>（研究テーマの応用例：短大生の男女共同参画意識、メタ記憶の変化についての質問調査、三重県各地における生涯学習推進状況調査）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：伊藤 貴美子
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：食物・栄養とがん予防に関する基礎的研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	食品由来抗酸化物質の安全性・有効性評価に関する研究（その5）コメントアッセイの検討, 三重短期大学生活科学研究会紀要 65, 17-20 (2017)		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：食品学（食栄・生活、昼、前期、2）、食品衛生学Ⅰ（食栄、昼、前期、2）、食品学実験（食栄、昼、前期、2）、食品の機能（食栄、昼、後期、2）、食品衛生学Ⅱ（食栄、昼、後期、2）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、2）、前後期：特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バスケットボール部顧問		
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生、2年次生クラス担任。 四年制大学への編入学を希望する学生に、専門科目の学習指導、面接指導を個別に実施した。		
教育上の工夫	<p>食品学：受講生の多くが高校までの教育課程で化学の基礎知識を修得していないことから、講義内容を基本的な項目に抑え授業レベルに配慮している。要点をまとめたプリントを配布し、重要事項についてはパワーポイントなどを用いてわかりやすく簡潔に説明することを心がけた。また、分子の構造がよりよく理解できるよう分子構造模型を用いて説明した。その他、復習を習慣づけるため各章ごとに小テストを行ったり、毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品衛生学Ⅰ：本講義では、微生物一般に関する基本的事項を学び、さらに主な微生物性食中毒について、予防に必要な基礎知識と応用力を習得する。断片的な知識の暗記に終わるのではなく、微生物が保つる食の安全性についてさまざまな角度から考察し理解を深め、体系的な知識と考え方が身につくよう努めた。そのためプリントやパワーポイントなどで多くの参考資料も提供した。また、毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせ、学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品学実験：多くの学生がこれまでに化学実験の基礎知識や技術、レポートの書き方などを学ぶ機会をもっていないため、基礎的事項を何度も繰り返し説明したり、実験項目ごとに「提出用レポート用紙」を配布してレポートの書き方を修得できるよう工夫した。また予習課題や設問を設け、学生が実験を通して食品に対する理解を深めることができるよう努めている。</p> <p>食品の機能：「健康に良い」とされる食品成分について、その生体影響のメカニズムや安全性をわかりやすく簡潔に説明することを心がけた。また、パワーポイントや問題解決型の授業形式を取り入れることにより、学生が自主的に興味を持って学べるよう努力した。毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品衛生学Ⅱ：食の安全性について、最近の話題も含め、体系的な知識と考え方が身につくよう努めた。そのためプリントやパワーポイントなどで多くの参考資料も提供した。期末試験のほかに、受講者の理解度を確認するため中間試験を実施した。毎回聴講券の裏に質問や感想を書かせて学生とのコミュニケーションがとれるよう努めた。</p> <p>食品衛生学実験：実験項目ごとに「提出用レポート用紙」を配布してレポートの書き方を修得できるよう工夫した。また予習課題や設問を設け、学生が実験を通して食品の安全性に対する理解を深めることができるよう努めている。</p> <p>特別演習：演習課題は「食品由来抗酸化物質の安全性・有効性評価に関する研究」。2016年度は食品由来抗酸化物質の健康影響評価法の一つとして、コメントアッセイの実験プロトコルの検討を行った食生活と健康の関係について知識を深めると共に、実験技法や得られた結果のまとめ方などが修得できるよう努めている。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本癌学会、日本薬学会、日本栄養・食糧学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	<p>出前講座、津税務署 「食べ物とがんについて」 2016年5月16日</p> <p>出前講座、松阪市飯高総合開発センター 「食べ物とがんについて」 2016年7月28日</p> <p>出前講座、松阪市朝見公民館 「健康食品を考える」 2016年11月7日</p> <p>ベジマルファクトリーとのコラボ商品開発</p>		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

### 3 一言アピール

食と健康との関係について関心が高まるなか、「健康にいい」食品（サプリメント）がメディアを介して次々と紹介されていますが、その多くは科学的根拠に乏しく、安全性の検討も十分ではありません。「健康にいい」とされる食品成分の生体影響を分子、細胞、個体レベルで検討し、そのメカニズムを明らかにすることにより、真に有効かつ安全な「食による疾病予防法」を提案したいと思っています。

（研究テーマの応用例：がん予防効果を有する安全な食物因子の検索、食物因子による発がん機構の解析）



三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：南 有哲
I 研究活動			
1 研究課題：「人間中心主義批判」の批判的検討			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他	誌面批評：自然中心主義をめぐって——本誌138号を読んで、経済科学通信140号 5月		
	書評：尾関周二著『多元的共生社会が未来を開く』 唯物論と現代No.55 6月		
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：環境論（共通、夜、前期、2）、生活経営（食栄・生活、昼、前期、2）、環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）、環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）、環境倫理学（生活、昼、後期、2）、環境共生論（生活、昼、前期、2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	一年次クラス担任、科学英語講読会		
教育上の工夫	環境論（共通、夜、前期、2）：自然科学的テーマに内容を限定		
	生活経営（食栄・生活、昼、前期、2）：生命再生産活動の概念を丁寧に説明し、市場経済の原理的なレベルでの理解を合わせて、現代における生活者の基本課題を理論的に解説している。		
	環境政策論（法Ⅰ・生活、昼、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。		
	環境政策論（法Ⅱ、夜、後期、2）：社会科学的テーマに内容を限定。		
	環境倫理学（生活、昼、後期、2）：主たる理論潮流と現実課題をセットで論じ、理解を深める。		
	環境共生論（生活、昼、前期、2）：毎回視聴覚教材を使用し、環境問題のリアルな理解を図っている。		
	居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）：視聴覚教材を利用してリアルな認識を得たうえで、それを基にした説明と討論を行い、最後に感想文を書かせることで、参加者自身の認識の深化を図っている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：唯物論研究協会、日本科学史学会、科学基礎論学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	津市環境基本計画推進市民委員会委員、津市廃棄物減量等推進審議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
特になし			
（研究テーマの応用例：外来生物問題の環境倫理）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：長友 薫輝
I 研究活動			
1 研究課題：社会福祉および社会保障制度・政策研究、地域福祉・地域医療研究、社会福祉援助技術論研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「地域医療構想にみる医療保障をつくる視点」『月刊保団連』No.1219、2016年5月		
	「国民医療の再定義を図る研究部会報告」『国民医療』No.333、2016年		
	「医療保障と平和主義の一体的関係」『医療労働』No.593、2016年8月		
	「地域医療の現段階と今後の課題」『医療労働』No.599、2017年3月		
その他			
学会等報告	第40回日本医療経済学会研究大会、2016年12月		
	第40回日本医療経済学会研究大会シンポジウム「地域医療構想を考える」コーディネーター、2016年12月		
	第64回日本社会福祉学会秋季大会・地域福祉分科会統括責任者、2016年11月		
共同研究 助成研究	日本医療総合研究所「インクルーシブ医療部会」2014年度～2016年度 「皆保険体制の持続可能性について」2016年度 三重短期大学地域問題研究所研究員		
II 教育活動			
1 担当科目：社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2）、社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2）、地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	四年制大学への編入を希望する学生に、小論文の書き方指導、面接指導を個別に実施した。1年生クラス担任（前期）、オフィスマワー（火曜日3限）、学外演習（自治体、福祉施設等の現場での演習）、卒論作成指導		
教育上の工夫	社会保障論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会保障論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会保障論においては特に学生にとって難解な用語が多く、解説に時間を割いている。		
	社会福祉論Ⅰ（生活、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	社会福祉論（法Ⅰ、昼、前期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。社会福祉論においては、貧困問題に関心を持って深めること、そして多様性を理解してもらえよう、伝え方などに工夫を重ねている。		
	地域福祉論Ⅱ（生活、昼、後期、2） 担当科目すべてにおいてわかりやすさを追求している。そのための工夫として、学生には毎回の授業時に感想や質問を記してもらい、コメントを付けて翌週に返却している。その上で地域福祉論においては、地域の様々な生活上の課題に関心を深めてもらえるよう、地域調査の手法を用いて問題意識の醸成に努めている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 1年生にとって初めての実習であり、ほどよい緊張感を持って臨んでもらえるよう、そして良好な人間関係を築くことができるよう、指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 18日間と長期に渡る実習期間において、実習先の利用者・職員の方々の良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		
	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ（生活、昼、後期、3） 実習をより効果的なものとするため、実習先についての問題関心を深めるとともに、社会福祉の視点を持ち、実習先の利用者・職員の方々の良好な人間関係を築き、より多くのことを学び取ることができるよう指導を行っている。		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。	
福祉心理演習（生活、昼、通年、4） 各人の問題意識に従って研究報告を行い、卒業論文を提出できるよう指導している。	
<b>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</b>	
1 所属学会：日本社会福祉学会、社会政策学会、日本医療経済学会、日本社会福祉士会、三重県社会福祉士会	
2 社会活動実績	
地域連携事業	
学外審議会委員等	三重県社会福祉審議会委員、三重県国民健康保険運営協議会準備会委員、三重県障害者自立支援協議会会長、三重県行政不服審査会委員、松阪市地域包括ケア推進会議会長、松阪市福祉有償運送運営協議会会長、津市社会福祉協議会理事、津市NPOサポートセンター理事、日本医療経済学会副会長、日本医療総合研究所理事、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所紀要編集委員
学外講演会講師等	社会福祉・社会保障、地域医療、国民健康保険、地域づくり等に関するテーマで年間30回程度引き受けている。
その他の社会活動	医療、介護、社会福祉に関するマスコミへの取材協力、寄稿
他大学非常勤講師	名城大学経済学部「地域福祉論」、皇学館大学現代日本社会学部「社会保障論」、大谷大学文学部「社会福祉調査論」、立命館大学経済学部「医療経済論」
3 一言アピール	
地域を元気にする調査・研究を地域づくりに関わる人々で行っています。	
（ 研究テーマの応用例：地域医療、地域福祉に関する計画づくり、地域住民の意向調査、医療法人・社会福祉法人職員研修 ）	

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：教授	氏名：木下 誠一
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：住宅・施設における生活空間の計画			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：居住計画論（生活・昼・前期・2）、居住福祉論（生活・昼・後期・2）、住生活論（生活・昼・後期・2）、住生活設計1（生活・昼・後期・2）、住生活設計2（生活・昼・前期・2）、居住環境特別演習（生活・昼・通年・4）、生活科学概論（基礎・昼・前期・2）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	クラス担任、オフィスアワー		
教育上の工夫	<p>居住計画論（生活・昼・前期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は質問用紙を配布して次の授業で回答を紹介するなどの工夫を考えたい。</p> <p>居住福祉論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。また、学生の資格取得への関心と意欲を高めるため、資格試験に関連した内容を演習問題などに一部取り入れている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は質問用紙を配布して次の授業で回答を紹介するなどの工夫を考えたい。</p> <p>住生活論（生活・昼・後期・2） パワーポイントやビデオを使用して、視覚的に理解しやすい講義を心掛けている。しかし、学生の質問や意見を授業に反映させることが不十分であるため、今後は質問用紙を配布して次の授業で回答を紹介するなどの工夫を考えたい。</p> <p>住生活設計1（生活・昼・後期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けている。また、学生同士が互いに意見を交わしながら創作活動に取り組める環境を大切にしている。しかし、授業に関係のない私語で騒がしくなることがあるため、私語は慎むよう指導していきたい。</p> <p>住生活設計2（生活・昼・前期・2） 学生の理解度や作業の進捗度において個人差が大きいため、学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けている。また、学生同士が互いに意見を交わしながら創作活動に取り組める環境を大切にしている。しかし、授業に関係のない私語で騒がしくなることがあるため、私語は慎むよう指導していきたい。</p> <p>居住環境特別演習（生活・昼・通年・4） 学生の主体性を尊重し、学生自身に研究テーマを設定させている。また、学生のモチベーションを高めるため、卒業研究発表会の開催、全国卒業設計展への応募、作品集の作成などを行っている。</p> <p>生活科学概論（基礎・昼・前期・2） 生活科学科の各教員が自身の専門分野について講義を行うオムニバス形式となっているが、学生が混乱しないように、15回の講義を二部構成にして内容にまとまりを持たせている。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本建築学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学出前講座 「高齢者の住まい」 いなべ市民生委員児童委員協議会連合会		
学外審議会委員等	三重県開発審査委員会委員、三重県公共事業評価審査委員会委員、老人保健福祉施設整備事業事前審査会、鈴鹿市景観審議会専門部会員ならびに審査部会員、松阪市景観アドバイザー、鳥羽市都市計画審議会委員		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
子どもから高齢者まで快適に暮らせる生活空間の質向上を目指した提案を行っていきたくと思っています。 (研究テーマの応用例：住宅や各種施設の計画・設計)			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：教授	氏名：山田 徳広
I 研究活動			
1 研究課題：プロテアーゼを用いた牛乳と豆乳のゲル化食品に関する研究、食品成分の血糖上昇抑制効果に関する研究、n-3系多価不飽和脂肪酸の栄養に関する研究、津市並びに三重県の食材を用いた加工食品の開発に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	関和俊,高木祐介,笠次良爾,山田徳広,小野寺昇,日帰り富士山登山時における若年女性登山者の示指,前腕部および下腿部の浮腫指標の変化.登山医学36(1): 160 - 165(2016) 高木祐介, 関和俊, 山田徳広, 笠次良爾, 集団で行う日帰り富士山登山時における登山者の体調及び生理学的指標の変化について—若年女性を対象とした実態調査—登山医学36(1): 147-152(2016) 高木祐介, 山田徳広, 関和俊, 小木曾洋介, 古淵陸行, 心拍数及び登高ペースからみた若年成人男性の富士宮ルートを使用した日帰り富士山登山の上り時における身体的負担について.ウォーキング20: 65 - 68(2017) 山田徳広, 三重県と津市における公立大学の必要性—社会的人口減少・全国最低の管理栄養士配置状況・食産業振興に向けて—.地研年報21: 11-81 (2016)		
その他			
学会等報告	高木祐介, 関和俊, 山田徳広, 笠次良爾, 若年女性の日帰り富士山登山時における水分摂取量と食物摂取量が体重変化量および脱水量に及ぼす影響, 日本登山医学会学術総会, 2016年6月, 宇都宮 関和俊, 高木祐介, 笠次良爾, 山田徳広, 小野寺昇, 日帰り富士山登山が前腕部および下腿部における浮腫に及ぼす影響, 日本登山医学会学術総会, 2016年6月, 宇都宮		
共同研究 助成研究	三重県工業研究所との共同研究 岡三加藤文化財団研究助成金 地域問題研究所研究助成		
II 教育活動			
1 担当科目：栄養学（食栄、昼、後期、2）、生化学（食栄、昼、前期、2）、ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期、2）、食生活論（食栄、昼、後期、2）、生化学実験（食栄、昼、前期、1）、栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)	編入希望者の指導、卒業生の管理栄養士国家試験受験指導		
教育上の工夫	生化学（食栄、昼、前期）：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。後期の栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。 生化学実験（食栄、昼、前期）：高等学校で化学を履修していない学生が多くなったことから、高校化学の基礎的事項から講義している。また、初めての実験授業であることから、実験の心得、実験器具の基本的書き方などをじっくり教えている。 栄養学（食栄、昼、後期）：前期の生化学とリンクさせながら、栄養素の代謝について教授している。前期の生化学において栄養学の教科書も購入させ、両科目で重なる部分を整理して効率的に教えている。 栄養学実験（食栄、昼、後期）：栄養素の特徴、消化のされかた、代謝のされかたなどを実験を通して体験させている。実験をするだけでなく、実験データの信頼性の評価の仕方まで踏み込んでいる。 食生活論（食栄、昼、後期）：食に関する社会問題について、DVDも使いながら講義している。DVDを見た後は必ずA4レポート用紙1枚分のレポートを書かせ、食の問題に関して意見をまとめられる様、訓練している。今後も、食の問題が社会環境に大きく影響される事を、最新の事例を用いて解説して行きたい。 ライフステージ栄養学（食栄、昼、前期）：4年生課程では通年30回で実施する授業であるが、半期15回しか時間が無いので、パワーポイントを使って効率的に授業をしている。特に、これから学生自身にとって重要となる、妊娠期と子供の栄養についてじっくりと教えている。		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：日本栄養食糧学会、日本農芸化学会、日本食生活学会、日本食品科学工学会、日本食品保蔵科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	平成28年10月4日 津税務署 出前講座 平成28年12月13日 鈴鹿市郡山公民館 出前講座 エディブルフラワーレシピコンテスト学生指導・2位入賞 つぶぞろいフェス学生指導 三重リーディング産業展参加		
学外審議会委員等	Sport Sciences for Health誌の査読		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	鈴鹿大学短期大学部「基礎栄養学」、「応用栄養学」		

3 一言アピール

超高齢社会を迎えた我が国では、高齢者の栄養障害と嚥下障害が問題となっている。たんぱく質分解酵素であるプロテアーゼは、牛乳中または豆乳中のたんぱく質を分解することによってゲルを形成する。このことを利用して高齢者の嗜好に合うと共に、栄養価が高く、嚥下しやすい食品を開発する。

現在、糖尿病の増加が大きな社会問題となっている。食品成分の中には、糖の吸収を抑えたり、インスリンの分泌を促すインクレチンの分泌を促進したり、インクレチンを分解する酵素DPPIVの作用を阻害することによって血糖の上昇を抑えるものがある。新たな血糖上昇抑制効果を持つ食品成分や食材を探索する。

n-3系多価不飽和脂肪酸は抗肥満作用、血中脂質改善作用、抗動脈硬化作用、抗アレルギー作用など様々な機能が明らかとなっている。近年、n-3系多価不飽和脂肪酸にインスリンの分泌を促すインクレチン分泌促進作用があることが明らかとなった。抗糖尿病作用を中心としてn-3系多価不飽和脂肪酸の栄養を探索する。

津市や三重県には様々な農産物がある。津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品を開発して提案する。

（研究テーマの応用例：高齢者用ゲル化食品の開発、血糖値が上がらないスイーツ開発、血糖値が上がりにくい食事方法の提案、津市や三重県の食材を用いた新たな加工食品の開発。）

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：1 生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：阿部 雅里（休職中）
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：栄養教育の有効性に関する研究、ビタミンE代謝に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究	一般社団法人日本調理科学会 特別研究 『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査		
助成研究	家庭内環境を考慮した女性3世代の食習慣と健康状態に関する栄養疫学的横断研究		
	ビタミンE代謝に関する研究 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B) 課題番号26870801「食事バランスガイドと簡易型自記式食事履歴問票を用いた食教育の注意点の把握」2014-2018年度		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本家政学会、日本栄養・食糧学会、日本調理科学会、日本農芸化学会、ビタミンE研究会、ゴマ科学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等	日本栄養・食糧学会中部支部参与		
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>栄養教育とは、対象とする個人や集団のQuality of Life (QOL) を高めるために、教育手段を用いて好ましい食行動の実践と習慣化を促すために、具体的に働きかけることです。そこで、食行動のよりよい変容を促すために、有効な栄養教育法について検討しています。また、必須栄養素であるビタミンEは、1920年代に発見されたにもかかわらず、その主な代謝産物が報告されたのは、1990年代後半と比較的最近です。その同族体の体内動態については未だ不明な点も多いため、ビタミンE代謝の詳細な解明を目的として研究を行っています。</p> <p>( 研究テーマの応用例：栄養教育の実施と評価、ゴマやサプリメント摂取時のビタミンE濃度測定 )</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：1生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：北村 香織
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：障害者を持つ人に対する地域生活支援、社会福祉政策史（医療政策史含む）			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「障害者差別解消法からみる合理的配慮の可能性」『生活科学研究会 紀要』No.65、2017年3月		
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：障害者福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉発達史（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3）、演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	1年生クラス担任（前期）、オフィスアワー（火曜日：4限）、卒論作成指導、4年制大学への編入希望者に対し、小論文及び面接対策を行った。		
教育上の工夫	<p>障害者福祉論（生活、昼、前期、2） 映像や資料を積極的に利用し、社会福祉に関わる問題について具体的なイメージをもちながら、概念を理解してもらえるように努めています。また、講義の流れを予め学生に周知することで、講義に集中できるように工夫をしています。</p> <p>社会福祉発達史（生活、昼、前期、2） 歴史を知るためにはまず、「社会福祉」の概要をつかまなければならないが、1年生の受講生も一定数いるため、歴史を扱う前に社会福祉の概要についての講義も行うなど工夫をしています。また、視覚的に理解できるように、資料に工夫をしたり、その時代に起こった世界的なできごと（中学高校で習ったもの）も取り上げながら話を進めることで、少しでも物事が繋がればと考えています。</p> <p>社会福祉援助技術演習Ⅰ（生活、昼、後期、4） 毎回ワークシートを作成し、演習の目的と概要がつかみやすいように工夫をした。演習はグループワークが基本であるが、プログラムの効果が最大限発揮できるように、特に授業の初期においては組み合わせについても配慮を行った。毎回ふりかえりシートを作成し、次週冒頭で復習してから授業に入るよう工夫をした。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3） 学生に対しては、実習先や実習パートナーの選択も含めてできるだけ最善の組み合わせができるように、全教員で普段の講義の態度などについても情報交換を行い、総合的に判断ができるように工夫を重ねている。また、日ごろから実習先施設との連絡を密にとり、何か問題が起こった際にもすぐに連絡をいだけたり、相談していただけるようにしている。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ（SS、昼、後期、3） 初めて学外実習へ行く学生に対し、社会人としてのマナーを徹底させることに留意した。実際に電話応答や連絡の仕方などを含めて具体的な練習も行った。実習指導については、実習の目的を明確化させるために、討論の時間を多く取ったが、コミュニケーション能力の向上にも配慮して運営を行った。法的根拠を理解させるために六法も多く活用した。</p> <p>演習（生活、昼、通年、4） ゼミ生の中にはそれぞれ経済的・身体的・精神的問題を抱えた学生が存在するが、それぞれがその存在を認め合いながら、互いに意見を交換できる様、そしてそれを主体的に行えるように雰囲気づくりを含めて工夫を重ねています。卒業論文指導はもちろんのこと、就職・編入学の書類の指導についても行いました。</p> <p>社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3） 1年次に行った実習を基にステップアップできるように、実習巡回の際には課題の振り返りと明確化を心がけた。実習指導者に対しても、1年次実習の様子も含めてお伝えし、情報の共有を図った。また、精神的に不安定になる学生も多いので、18日間を安定的に過ごせるようにコミュニケーションにも工夫をした。お礼状を含めた事後の指導についても、全体的な指導だけでなく、個別指導も行った。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会福祉学会、障害学会、日本社会福祉士会、京都社会福祉士会、医学史研究会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	みえアカデミックセミナー2016「ユニバーサルデザインのまちづくりを考える～暮らしやすいまちにするために」 2016年7月12日（火）三重県文化会館		
学外審議会委員等	津市地域公共交通活性化協議会委員、津市の公共交通を考える市民研究会 代表、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会委員		



## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

学外講演会講師等	<p>大和郡山市職労研修会講師「子どもの医療費について考える～社会保障とは何か。わたしたちがつながるために」2016年4月10日（日）大和郡山市片桐公民館</p> <p>学童保育連絡会研修会講師「障害者差別解消法の意義と合理的配慮」2016年7月5日（火）サンワーク津</p> <p>北立誠小学校研修会講師「障害者差別解消法の意義と合理的配慮」2016年7月27日（水）北立誠小学校</p> <p>津市教育委員会人権ステップアップ講座講師「合理的配慮とは何か ～求められることと支援者の自己覚知」2016年8月5日（金）津市河芸総合支所</p> <p>美里総合支所職員人権研修「障害者差別解消法の意義と合理的配慮」2016年9月28日（水）津市美里総合支所</p> <p>津市教育委員会研修会「障害者差別解消法の意義と合理的配慮」2016年9月30日（金）高茶屋市民センター</p>
その他の社会活動	
他大学非常勤講師	放送大学非常勤講師
<p>3 一言アピール</p> <p>障害を持つ人、特に知的障害や発達障害を持つ人が地域で生活するためにはどのような施策が必要なのか、どのようにすれば実現可能であるのかを追求しています。近年は三重県や津市が多様な人々にとって住みよい街になるためには、公共交通政策やまちづくり政策はどのように進めて行く必要があるのかについて研究活動を行っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：三重県におけるユニバーサルデザインのまちづくり、三重県の社会事業史）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：清道 亜都子（休職中）
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：言語表現活動（特に、書くこと）を教育実践に活用する方法の探究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究			
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：			
2 教育活動実績			
課外活動が指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫			
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本教育方法学会、日本教育心理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
日本の初等・中等教育について、理論と実践の両面から研究しています。			
（研究テーマの応用例：言語表現活動によるメタ認知能力の向上、教育実習日誌の記述指導プログラムの開発）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：武田 誠一
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：在宅生活を支援する地域包括ケアの研究、介護支援専門員のケアマネジメント過程の研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	<p>「三重県における「回復期」機能を持つ医療機関の分布—地域包括ケア病棟の開設状況を中心として—」『人間福祉学会誌』, 16 (2) 61-67 2017年3月 (査読有)</p> <p>「居宅介護支援事業所における主任介護支援専門員の専門性—地域包括ケアにおいて求められる役割とは—」『地研年報』 (21) 83-89 2016年9月</p> <p>「医療と福祉の立場からみる地域包括ケアシステム」『生活科学研究会 紀要』 (65) 33-36 2017年3月</p>		
その他			
学会等報告			
共同研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「地域包括ケアシステム下における主任介護支援専門員の役割に関する研究」		
助成研究			
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：社会福祉援助技術総論（生活、昼、前期、4）、医療福祉論（生活、昼、前期、2）、社会福祉援助技術論Ⅰ（生活、昼、後期、4）、福祉心理基礎演習（生活、昼、後期、2）、福祉心理演習（生活、昼、通年、4）、社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（生活、昼、前期、3）、社会福祉援助技術現場実習Ⅰ（生活、昼、後期、3）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 (その他)			
教育上の工夫	<p>医療福祉論 専門的な内容であったが、それが学生の知的刺激に結びついているのであれば、その期待に応えられるように、今後も講義で取り上げる内容を更にブラッシュアップしていきたい。 他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術総論 1年生のみの受講でソーシャルワークを理解できるようにグループワークなどを取り入れた。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>社会福祉援助技術論Ⅰ 少人数であるため、グループワークを多用した結果、それらの教材に対する評価が結果に反映されていると考える。他方、学生の質問や意見に関しては、授業時間内で十分確保できていなかった点が、結果に反映されていると考える。一言カードの導入などを検討していきたい。</p> <p>福祉心理基礎演習 新聞レポートを活用し、意見発表を積極的に行えるように工夫を行った。</p> <p>福祉心理演習 卒業論文の完成に向け、個別指導と全体での指導を合わせ実施した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本医療・病院管理学会、日本プライマリ・ケア連合学会、社会政策学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動	社会福祉法人津市社会福祉事業団評議員 2014年6月1日～2017年3月、津市人権施策審議会委員 2015年1月10日～、津市介護保険事業等検討委員 2016年10月～、「新しい時代の津市民館」検討委員 2016年7月～2017年3月		
他大学非常勤講師	皇學館大学現代日本社会学部「公的扶助論」、日本こども福祉専門学校通信教育部社会福祉士学科「保健医療サービス」		
3 一言アピール			
<p>福祉、介護、医療での支援のあり方について、関心を持ち研究しております。 専門職として職場や地域で自己研鑽を目指す方と協働していければと考えております。</p> <p>(研究テーマの応用例：ケアプラン(居宅介護支援計画)の検討・学習会、地域包括ケアのための社会資源開発の研究、地域ケア会議の円滑な運営に関する研究)</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻	職名：准教授	氏名：小野寺 一成
I 研究活動		
1 研究課題：行政計画体系における広域都市計画、都市農村計画の意義、人口減少期の都市計画のあり方、住民参加と都市計画理論の共存、住民参加型計画の効果		
2 研究活動実績		
著書		
論文	地域活性化に向けた地方公立大学のあり方に関する考察 一津市立三重短期大学の建替え検討を事例として― 三重短期大学紀要 第65号 2017年3月	
	津市中心部における都市構造の変遷に関する研究 南部亜佐美、小野寺一成 三重短期大学紀要 第65号 2017年3月	
その他	“まちの大学”地域に必要とされ、まちを豊かにする大学へ 一市立A短期大学を核とした地域創生への取り組み例― 三重短期大学地域問題研究所 地域年報 第21号 2016年9月	
学会等報告		
共同研究	地域問題研究所 研究員 テーマ「地方都市再生に向けたコンパクトな都市構造の形成と都市再生手法に関する研究」	
助成研究		
II 教育活動		
1 担当科目：「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1）、「住環境計画」（生活、昼、前期、2）、「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2）、「地域政策論」（法Ⅱ、夜、前期、2）、「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）、「地域環境学」（生活、昼、後期、2）、「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）、「住環境特別演習」（生活科学科：通年）、生活科学概論（基礎・昼・前期・2）		
2 教育活動実績		
課外活動指導	都市計画ゼミにて、世界的建築家フランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテル他、建物遺産が移築されている博物館明治村の視察	
学内教育活動（その他）	生活科学1年次クラス担任、オフィスアワー 前期：金曜日12:30～14:00、後期：水曜日12:30～14:00、「住環境特別演習」のゼミ生における卒業研究及び発表会の指導及び「2016年度都市計画ゼミ卒業研究（論文・設計）集」の作成・編集	
教育上の工夫	第1部前期「まちづくり設計Ⅰ」（生活、昼、前期、1） 今年度の「総合評価」は5.63であり、昨年度の総合評価5.04を大きく上回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「わかりやすさ」の評価項目が5.63（昨年度4.93）と高い。設計を指導する授業のため、エスキースを行ないながら進めたことや講評会を行いながら進めたことから評価が高いと思われる。次いで「教材」5.56（昨年度5.00）となっており、「板書・話し方」5.50（昨年度4.89）、「知的刺激」5.50（昨年度4.96）の評価項目が高くなっている。項目別にみると全て昨年度より上がっている。今年度の履修申告者が21名と昨年度の32名より少なくなったため、一人当たりにかかる時間が増えたことも原因と考えられる。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし、個別的な指導を心掛けていきたい。しかしながら、当授業は1単位1時限であることから、履修申告者が増えてきた場合は、時間コマ数を増やす等も今後の対応として検討していきたい。	
	第1部前期「住環境計画」（生活、昼、前期、2） 今年度の「総合評価」は4.91であり、昨年度の総合評価4.95より若干下がったがほぼ同様な状況となっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.29と高い。次いで、「教材」と「学生の質問や意見」がともに5.04（昨年度4.95と4.65）、「教員の熱意」が5.02（昨年度5.04）、「板書・話し方」4.95（昨年度4.84）、「良好な学習環境」4.93（昨年度4.68）と続いている。項目別にみると「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、昨年度同様か上回っているものが多い。事前説明等を十分に行う必要があるようである。図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしている。来年度以降も改善しながら進めていきたい。	
	第1部前期「地域政策論」（食・生活・法Ⅰ、昼、前期、2） 今年度の「総合評価」は5.37であり、昨年度の総合評価5.30を若干上回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.79と高い。次いで、「教材」の評価項目が5.35（昨年度5.42）、「板書・話し方」が5.30（昨年度5.42）、「教員の熱意」が5.28（昨年度5.55）、「学生の質問や意見」が5.25（昨年度5.12）と高くなっている。一方、「わかりやすさ」の評価が4.96（昨年度5.21）と低い結果となった。今年度の履修申告者は74名と昨年度の40名から大幅に多くなったことも原因の一つと考えられる。今後、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしていきたい。	
	第2部前期「地域政策論」（法Ⅱ、夜、前期、2） 今年度の「総合評価」は5.33であり、昨年度の総合評価5.02を上回った。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「学生の質問や意見」の評価項目が5.50（昨年度4.94）と高い。次いで、「教材」と「知的刺激」がともに5.30（昨年度5.08と4.90）、「板書・話し方」と「良好な学習環境」がともに5.23（昨年度4.92と4.90）、「教員の熱意」が5.20（昨年度4.92）となっている。一方、「学生の興味を引く工夫」の評価が4.93（昨年度4.49）と若干低い。昨年度を全体的に上回っているが、昨年度はこの時間当講義以外の授業が開講されていないことから受講している学生も多かった。今年度は、同時に開講している平行授業があるため、興味のある学生を中心に受講したためと考えられる。今後、図表を中心としたパワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしていきたい。	

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

	<p>第1部後期「まちづくり設計Ⅱ」（生活、昼、後期、1）</p> <p>昨年度に比べ全体的に評価が高くなっており全ての項目において5.46を超え、「総合評価」は5.92であり昨年度の総合評価5.53より高い値となっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が6.00（昨年度5.84）と高く、設計を指導する授業のため、エスキーズを行ないながら進めたこと、中間提出や最終提出の講評会を丁寧に行ったことから評価が高いと考えられる。次いで「教員の熱意」が5.92（昨年度5.53）、「知的刺激」5.85（昨年度5.58）、「教材」5.69（昨年度5.47）と評価項目が高くなっている。「良好な学習環境の評価」が5.46（昨年度5.21）と若干低いのは、グループ作業による設計を行っており、グループ内で活発な議論が行われたことから、他グループの声等が聞こえるためと思われる。昨年度より全体的に評価が高いのは今年度の受講生が14名と少なくなり、一人当たりにかける時間が増えたことが原因と考えられる。今後も学生一人ひとりと接する機会を増やし個別的な指導を心掛けていきたいが、受講者数の確保も課題とした。</p>
	<p>第1部後期「地域環境学」（生活、昼、後期、2）</p> <p>昨年度に比べ全体的に評価が高くなっており全ての項目において5.30を超え、「総合評価」は5.50であり昨年度の総合評価4.86より大幅に高くなっている。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.70（昨年度5.49）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「教員の熱意」の評価項目が5.60（昨年度5.02）、「教材」が5.56（昨年度5.20）、「学生の質問や意見」5.56（昨年度4.82）と高い。一方、「知的刺激」の評価が5.30（昨年度4.69）とやや低いのが昨年度を大幅に上回っている。昨年度より全体的に高い評価は、小教室に69名の学生が受講しており、全体的に分かりやすく易しい授業を心掛けていることからかもしれない。パワーポイントやDVD等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしているが、もう少し最新の情報などを取り入れ、知的興味を持てるようにしたい。</p>
	<p>第1部後期「都市計画論」（生活、法Ⅰ、昼、後期、2）</p> <p>昨年度に比べ全体的に評価が高くなっており全ての項目において5.42を超え、「総合評価」は5.55であり昨年度の総合評価4.98よりかなり高くなった。「事前説明」や「シラバス（ガイダンス）」の項目以外では、「レポート等の返却」の評価項目が5.84（昨年度5.56）と高い。これは中間試験の採点を返却したことと思われる。次いで、「教員の熱意」の評価項目が5.65（昨年度5.13）、「学生の質問や意見」が5.61（昨年度4.96）、「良好な学習環境」5.59（昨年度4.75）「板書・話し方」5.58（昨年度5.46）、「教材」5.58（昨年度5.10）と高い。一方、「知的刺激」の評価が5.42（昨年度4.82）と若干低いものも昨年度より高くなっている。昨年度より全体的に高い評価は、法経科や第2部の開講講義では無くなり、居住環境コース中心の受講生が多く、履修学生が40名と少なくなったことも原因と考えられる。「学生の興味を引く工夫」5.55（昨年度4.67）などは、パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用するとともに、毎回の講義後に簡単なキーワード試験を取り入れて興味を持てるような工夫をしている。</p>
	<p>第1部通年「居住環境特別演習」（生活科学科：通年）</p> <p>都市計画ゼミのねらいは、まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーションでできることが大切であると考えている。授業計画としては、まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめる。前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ、卒業研究（卒業論文・卒業設計）発表会にて各自発表を行っている。ゼミ生のまちや都市への興味の一環として、一身田寺内町、津城及び大門商店街、及び、建築遺産が移築されている博物館明治村の視察を行った。</p>
	<p>第1部前期「生活科学概論」（基礎・昼・前期・2）1コマ</p> <p>生活科学科の各教員が自身の専門分野について講義を行うオムニバス形式となっており、その内一講義を担当している。食物栄養学専攻、生活福祉・心理コース、居住環境コースの学生全員に興味を持ってもらうため、「住民参加とコミュニティ」というソフトなテーマで講義を行っている。パワーポイント等の視覚的教材を積極的に使用し、最後に感想や意見等をA5版用紙に記載させるなど、興味を持てるような工夫をしている。</p>
<p>Ⅲ 学会等及び社会における主な活動</p>	
<p>1 所属学会：公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人日本建築学会</p>	
<p>2 社会活動実績</p>	
<p>地域連携事業</p>	
<p>学外審議会委員等</p>	<p>一般社団法人建築学会 都市計画委員会 地方都市再生手法小委員会委員（2015.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部 三重支所運営委員（2015.8～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会委員（2016.4～）、一般社団法人建築学会 東海支部 都市計画委員会 講演会実行部会員（2017.4～）、2015年 三重県事業認定審議会委員（都市計画）（2015～）、2015年 津市建築審査会委員（都市計画）（2014～）、2015年 津市農業振興対策協議会委員長（2014～）、2015年 津市福祉有償運送運営協議会委員長（2014～）、2016年 四日市市開発審議会委員（2016～）</p>
<p>学外講演会講師等</p>	
<p>その他の社会活動</p>	
<p>他大学非常勤講師</p>	
<p>3 一言アピール</p> <p>広域都市計画、都市農村計画、住民参加のまちづくり、持続可能なコンパクトシティ、都市再生手法、人口減少時代の都市計画など、今後の都市計画の課題に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>（研究テーマの応用例：広域都市計画の検討、都市農村計画の検討、老朽化した公営住宅団地等の建替え検討、住民参加のまちづくり）</p>	

三重短期大学教員研究・教育業績 (2016年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：准教授	氏名：駒田 亜衣
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：特定健診・特定保健指導の評価に関する研究、県民健康・栄養調査の評価に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	駒田亜衣、中井晴美、飯田津喜美、山田真司「内臓脂肪蓄積と生活習慣の関連について」日本ヒューマンケア科学学会, Vol.10, No.1pp11-21(2017)		
その他	「栄養科学シリーズNEXT・公衆栄養学概論」講談社サイエンティフィク(2016.6)		
学会等報告	駒田亜衣、中井晴美、山田真司「特定保健指導終了者における腹囲改善をもたらす生活習慣について」2016(63回)栄養改善学会(青森市) 山田真司、中井晴美、駒田亜衣「特定健康診査データによる食習慣の経時的変化とその特徴について」2016(63回)栄養改善学会(青森市) 駒田亜衣、中井晴美、木下なつこ、山田真司「保健指導後の生活習慣変化と腹囲改善との関連について」2016年(75回)公衆衛生学会(大阪) 山田真司、駒田亜衣「生活習慣の変化の腹囲改善に対する影響について」2016年(75回)公衆衛生学会(大阪)		
共同研究	(テーマ:特定健康診査・特定保健指導の解析)駒田亜衣(研究代表者)、中井晴美、木下なつこ、山中瞳、山田真司		
助成研究	「三重県民健康・栄養調査事業に係る専門指導業務事業」三重県健康づくり課 平成28年度三重短期大学政策研修・研究「保育所における食事と身体状況調査等の解析」 2016年度地域問題研究所研究員「特定健診受診者の栄養調査実施による健診結果の改善効果について」		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：調理学(食栄、昼、前期、2)、調理学実習Ⅱ(食栄、昼、後期、1)、給食計画実務論(食栄、昼、後期、2)、校外実習事前事後指導(食栄、昼、通年、1)、給食計画実務論実習Ⅰ(食栄、昼、前期、1)、給食計画実務論実習Ⅱ(食栄、昼、通年、1)、特別演習(食栄、昼、通年、4)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	茶道部顧問		
学内教育活動(その他)	クラス担任(食栄1年生、食栄2年生)、食栄学生就職指導(食栄2年生)、食栄学生編入学指導(食栄2年生)		
教育上の工夫	<p>「調理学」では、食品や使用する器具の写真を出来る限りスライド等で示し、理解しやすいように工夫している。また、「調理学実習Ⅰ」を担当いただいている非常勤講師とも連携をとり、実習と講義がリンクするように調整している。</p> <p>「調理学実習Ⅱ」では、前期の同実習Ⅰからの応用となるように、段階を考えたスケジュールにしている。また、献立作成の機会を設け、実際に自分の献立を取り入れて調理できるよう工夫している。</p> <p>「給食計画実務論」では、大量調理や校外実習に必要な知識を身につけることを目的としている。献立作成に加え、発注や原価分析などの練習も取り入れるようにしている。</p> <p>「給食計画実務論実習Ⅰ」では、同講義をもとに大量調理を实践し、栄養士業務の主となる給食の運営を学ぶことを目的としている。献立作成、発注、検収、衛生管理、帳票類の作成など、実習を通して給食運営の一連の流れを把握できるよう工夫している。</p> <p>「特別演習」では、公衆栄養学的内容で実施した。子どもの身体状況と食事摂取状況との関連の解析や、特定健診結果の解析、三重県の食の状況調査解析などを行い、将来的に栄養士として働くうえで知っておくべき内容を研究テーマとした。データのみ</p> <p>「校外実習事前事後指導」では、栄養士実習に必要な知識やマナー、課題研究に積極的に取り組めるよう指導を行った。特に、実習先ごとに重点的に準備すべき内容が異なるため、できる限り個別に対応した。</p>		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本公衆衛生学会、日本ヒューマンケア科学学会、日本家政学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	地域連携連携カフェHONOBUONO(給食運営) 第2回エディブルフラワーレシビづくり大会(レシピ開発) 世界の料理講座(調理実習)津市国際交流協会		
学外審議会委員等	津市栄養士連絡会委員、津地域栄養管理ネットワーク研究会委員		
学外講演会講師等	津市ヘルスマイトリーダー研修会講師(津市食生活改善推進協議会)「おいしく食べる工夫」(2016年9月6日)		
その他の社会活動			
他大学非常勤講師	放送大学(平成28年度面接授業講師)		

## 三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

### 3 一言アピール

食習慣や生活スタイルは地域ごとに特徴があり、それらを客観的に明らかにすることによって、その土地や環境に合った健康増進や生活習慣予防の方策が立てられる。有効な方策を見出すため、特定健康診査(メタボ健診)や県民健康栄養調査の結果をいろいろな観点から探り、性別、年代、地域だけでなく、普段の生活習慣による違いなど、健康増進に役立つ知見を得ることを目的に研究を進めている。

( 研究テーマの応用例：有効な特定保健指導に関する研究、栄養摂取量と生活習慣との関連に関する研究)

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科生活科学専攻		職名：准教授	氏名：笠 浩一朗
I 研究活動			
1 研究課題：自然言語処理、コーパス言語学			
2 研究活動実績			
著書			
論文	「LINEスタンプひつじの『みえ〜ちゃん』の制作について」、岩見かほり、冨井葉月、松木梨花、宮城周汰、笠浩一朗、三重短期大学紀要（65）37-42 2017年3月		
その他			
学会等報告			
共同研究	科研費 基盤研究（C）「同時通訳の訳出方略の分析のための柔軟な対訳対応付け手法の開発」（代表者）（課題番号：17K02765）		
助成研究	科研費 若手研究（B）「多角的な観点に基づく同時通訳者の通訳プロセスの定量的な分析」（代表者）（課題番号：25770146） 科研費 基盤研究（B）通訳方略の体系化と文構造の逐次解析に基づく講演音声の同時通訳（分担者）		
II 教育活動			
1 担当科目：情報処理実習Ⅰ（共通・夜前期・昼2クラス後期・1）、数理科学（基礎・昼前期・2）、情報と社会（共通：昼前期・夜後期・2）、情報と科学（共通：昼後期・2）、居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	クラス担任（居住環境コース）、4年制への編入を目指す学生への数学、物理等の個別指導。		
教育上の工夫	<p>情報処理実習Ⅰ（共通・夜前期・昼2クラス後期・1）          実習は、スライドで説明をしながら進めるが、学生のPC活用力のレベル差が大きいため、進度が早い学生や遅い学生は各自が教科書を参考にする事で、自分に適したスピードで進められるように配慮した。今後の改善方法としては、学生とのコミュニケーションを密にして、より学生の声を授業に反映させることが必要であり、今後積極的に取り組みたいと考えている。</p> <p>数理科学（基礎・昼前期・2）          学生間において知識、及び、理解力に差があり、すべての学生に対して適した講義内容、講義レベルを合わせることは困難なので、講義では比較的理解しやすい内容を説明し、より深い内容を知りたい学生、及び、講義内で理解できなかった学生に対しては講義時間外の個別指導で対応するようにした。</p> <p>情報と社会（共通：昼前期・夜後期・2）          毎回資料を配布することで、講義内容の理解が向上した。講義中盤の自然言語処理に関する内容、及び、講義後半の情報システムに関する内容については、少し理解できていない学生が多いようなので、具体的な事例を紹介することで、理解しやすい内容になるように工夫した。</p> <p>情報と科学（共通：昼後期・2）          受講生の人数が多いため、講義内で理解度を試す小テストやプログラミングの実習などにおいて、細かい指導ができないため、講義での全体説明をよりわかりやすくするように努めた。</p> <p>居住環境特別演習（生活、昼、通年、4）          演習では、学生が興味がある情報処理を活用した研究（プロジェクト）に取り組んでおり、2016年度は三重短期大学のLINEスタンプ制作を実施した。また、情報系の資格支援も演習内で実施した。</p>		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会：電子情報通信学会、言語処理学会、情報処理学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	2016年8月6日 三重短期大学オープンカレッジ「インターネットとセキュリティ」		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>プロの同時通訳者の訳出メカニズムの解明のため、大規模に収集した同時通訳者の音声言語データを、統計的な手法で解析しています。</p> <p>（・言語処理技術を利用した言語データの統計的分析）</p>			



三重短期大学教員研究・教育業績 (2016年度)

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：飯田 津喜美
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：タンパク質の構造・機能に関する研究，ササゲ属マメに関する研究，食文化に関する研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文	武田春奈，飯田津喜美：「シロミトリ豆の加工・調理方法の検討」，三重短期大学生生活科学研究会紀要，No.65，21-28 (2017)		
その他	小野はるみ，飯田津喜美，若杉悠佑：「弓道選手の食生活調査について」，スポーツ医・科学MIE第24巻，23-28 (2017)		
学会等報告	磯部由香，飯田津喜美，阿部稚里，乾陽子，萩原範子，奥野元子，久保さつき，小長谷紀子，駒田聡子，鷺見裕子，成田美代，平島円，水谷令子：「三重県の実家庭料理 主食の特徴—ご飯もの・すし・麺類について—」，日本調理科学会平成28年度大会特別企画1「次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理」，2016年8月，名古屋市		
	飯田津喜美：「子育て支援・食育の実践—食育サポーターの子ども料理体験教室における活動紹介—」，第63回日本栄養改善学会学術総会，2016年9月，青森市		
共同研究	リボカリン型プロスタグランジンD合成酵素 (L-PGDS) の構造と機能解析		
助成研究	ササゲ属マメの国内外での利用圏と調理科学的利用法の検討		
	日本調理科学会 特別研究『次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理』三重県研究調査		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：特別演習 (食栄，昼，通年，4)，調理学実習Ⅰ (食栄，昼，前期，1)，給食計画実務論実習Ⅰ (食栄，昼，前期，1)，調理学実習Ⅲ (食栄，昼，後期，1)，栄養教育論実習Ⅱ (食栄，昼，後期，1)			
2 教育活動実績			
課外活動指導	バレーボール部副顧問		
学内教育活動 (その他)	食栄1年次生クラス担任，食栄2年次生クラス担任，子ども料理体験教室学生食育サポーター育成・指導		
教育上の工夫	特別演習：地域伝統食材のシロミトリ豆の加工及び調理方法においては，学校給食を活用して食の継承につなげる方策を検討した。論文輪読会では文献の読み解き方や研究のまとめ方を指導した。また，実社会に出てからも活用できる技術の習得に努めた。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養士会，日本栄養改善学会，日本生化学会，日本調理科学会，日本蛋白質科学会，日本熱測定学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	三重短期大学オープンカレッジ「健康づくりのための食生活にむけて～食事情あれこれ～」，2016年10月1日		
	第16回津市国際交流デー出店，津市国際交流協会主催，2016年10月16日，津市		
	高大連携出前講義「味噌汁中の塩分量を調べよう」，三重県立相可高校食物調理科1年～2年生，2016年10月24日		
	出前講義「高齢期の食生活と健康づくり」，津市高齢期運動連絡会・交流のつどい，2016年12月8日，津市		
学外審議会委員等	三重県栄養士会理事，三重県体育協会スポーツ医・科学委員会委員，日本調理科学会東海北陸支部役員，日本調理科学会平成28年度大会実行委員会委員2016年8月28～29日		
学外講演会講師等	スポーツ栄養指導教室講師 (分担)，三重県弓道連盟 (三重県立松阪高校)，2016年7月16日，9月17日，12月26日		
	研修会講師「専門職としての役割と倫理要綱」，三重県栄養士会生涯教育研修会，2016年8月26日，津市		
	三重県栄養士会平成28年度研究発表会座長 (分担)，三重県栄養士会，2017年3月11日		
その他の社会活動	三重県学生バレーボール連盟監事		
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>タンパク質は，その構造や機能を調べることでより様々な性質を知ることができます。現在，大阪府立大学との共同研究において，生体内輸送蛋白質であるリボカリン型プロスタグランジンD合成酵素(L-PGDS)を用いた新規ドラッグ・デリバリー・システム (DDS) の開発を目指し，本蛋白質の熱安定性と機能性について調査しています。</p> <p>また，三重県の伝統食材 (シロミトリ豆他) を調査し，調理科学的分析を行いながら有効利用法を研究しています。あわせて将来に残したい家庭料理・行事食としての継承活動も行っています。</p> <p>( 研究テーマの応用例：三重県内伝統食材の発掘・伝承調査研究，食生活改善普及事業の実施と評価 )</p>			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助教	氏名：米田 武志
<b>I 研究活動</b>			
1 研究課題：食嗜好に関する研究、食品成分に関する研究			
2 研究活動実績			
著書	栄養科学イラストレイテッド 食品学II（羊土社）		
論文			
その他			
学会等報告			
共同研究 助成研究	科研費 若手（B） 動物の嗜好形成を促進する食品因子に関する研究		
<b>II 教育活動</b>			
1 担当科目：栄養学実験（食栄、昼、後期、1）、食品衛生学実験（食栄、昼、後期、1）、生化学実験（食栄、昼、前、1）、食品学実験（食栄、昼、前期、1）、特別演習（食栄、昼、通年、4）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動 （その他）			
教育上の工夫	実験が滞りなく進行するよう、講師の実施する実験をサポートした。		
<b>III 学会等及び社会における主な活動</b>			
1 所属学会：日本栄養食糧学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業			
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
生活を楽しくするための”食”を開発する。「おいしいものをおいしく食べて毎日楽しく生きる」を目標として、教育研究活動を行っています。			
（研究テーマの応用例：油脂代用材料およびそれを用いた飲食品の提供）			

三重短期大学教員研究・教育業績（2016年度）

所属：生活科学科食物栄養学専攻		職名：助手	氏名：中井 晴美
I 研究活動			
1 研究課題：食生活に関する調査研究			
2 研究活動実績			
著書			
論文			
その他			
学会等報告	駒田亜衣、中井晴美、山田真司：特定保健指導終了者における腹囲改善をもたらす生活習慣について、第63回日本栄養改善学会、2016.9（青森市）		
	山田真司、中井晴美、駒田亜衣：特定健康診査データによる食習慣の経時的変化とその特徴について、第63回日本栄養改善学会、2016.9（青森市）		
	駒田亜衣、中井晴美、木下なつこ、山田真司：保健指導後の生活習慣変化と腹囲改善との関連について、第75回日本公衆衛生学会、2016.10（大阪市）		
共同研究			
助成研究			
II 教育活動			
1 担当科目：給食計画実務論実習Ⅰ助手（食栄、昼、前期、1）、校外実習事前事後指導助手（食栄、昼、前後期、1）、臨床栄養学実習助手（食栄、昼、前期、1）、調理学実習Ⅱ助手（食栄、昼、後期、1）			
2 教育活動実績			
課外活動指導			
学内教育活動（その他）	食栄1・2年次生クラス担任、キャリア支援委員、校外実習巡回指導		
教育上の工夫	非該当		
III 学会等及び社会における主な活動			
1 所属学会			
2 社会活動実績			
地域連携事業	政策研究・研修「保育所における食事と身体状況調査等の解析」補助 三重大学連携カフェ 補助 513ペーカリーとのコラボ 補助		
学外審議会委員等			
学外講演会講師等			
その他の社会活動			
他大学非常勤講師			
3 一言アピール			
<p>特定健康診査結果より生活習慣病発症に関わる因子を分析し、今後の望ましい食生活を実現するために、栄養士としてできることを学生と一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>（研究テーマの応用例：特定健康診査の地域比較）</p>			